

中部山岳国立公園南部地域 利用推進プログラム 2025

「2023 改訂版」



中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会

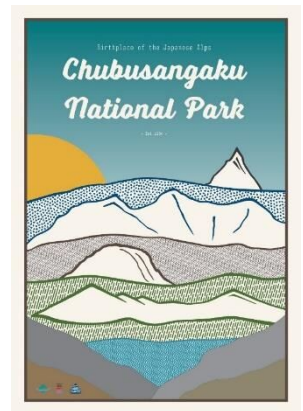
2024 年 3 月改訂版

表紙デザインについて

環境省中部山岳国立公園管理事務所では、北アルプスが国立公園であることのブランド力と認知度を高めることを目的に、中部山岳国立公園南部地域の価値や魅力を印象的に伝えるため、2021年（令和3年）4月に2種類のポスターを作成しました。本プログラムには、そのうち、南部地域全体をより表現しているものを背景画に使用しました。

中部山岳国立公園ポスターの作成について（2021年4月23日）

URL：http://chubu.env.go.jp/shinetsu/pre_2021/post_162.html



（スマートフォン等でQRコードを読み込むと信越自然環境事務所の報道発表がご覧いただけます）

以下に、上記発表ページより、ポスターに関する説明文章を転載します。

どこか懐かしさを感じられるようなノスタルジックなデザインを採用しました。最奥には槍ヶ岳を配置し、順に穂高連峰、焼岳、乗鞍岳等をイメージした山々により、中部山岳国立公園の奥行と重なりを表現しています。さらに山肌や水面のテクスチャには伝統的な木版画/刺し子のスタイルを用いています。また、高山から松本までの間に位置する中部山岳国立公園南部地域には1枚のポスターでは表現しきれないほどの多種多様な魅力があり、その全てをデザインとして採用することはできませんでしたが、このエリアの特徴を端的に表現するため、いくつかの工夫を凝らしています。例えば、テクスチャとして、槍ヶ岳と穂高連峰の間の空間には白樺のタネを散りばめたり、また、穂高連峰と焼岳の間の空間にはライチョウの足跡を表現しています。また、日の出や日の入り時は、中部山岳国立公園の景観が最も印象的に輝く時間帯であり、山と人との関わりによる文化や歴史の表現として、日の光に浮かび上がる鳥居のシルエットを盛り込んでいます。さらに、焼岳をイメージした茶色の山の脇からは、自然に湧出する温泉の湯けむりを見せています。ご覧になられる方が、これらにより、日本の国立公園の特徴であり、中部山岳国立公園が持つ、自然と文化の多様性を感じていただけると幸いです。

文章末に記載しているとおり、この背景画が表現する日本の国立公園の特徴であり、中部山岳国立公園が持つ“自然と文化の多様性”を訪れる多くの方に感じていただけるような取組を進めていきたい、と考えております。

環境省中部山岳国立公園管理事務所
（2021年5月印刷）

目次

はじめに	1
1. プログラム 2025(2023 年改訂版)の背景と趣旨	2
2. プログラム 2025 の役割	3
3. 本地域の特色	4
4. 本地域のエリア	5
第 1 章 プログラム 2025 開始後の利用及び取組状況	7
1. 現状分析	8
2. プログラム 2025 の中間評価	14
3. 関連政策の動向	22
4. 今後取組を進める上で必要な観点	25
第 2 章 プログラム 2025 の目指すもの	28
1. ビジョン～プログラム 2025 が目指すもの～	29
2. 数値目標	33
第 3 章 プロジェクトの実施	36
1. プロジェクトの概要	37
2. プロジェクトの内容	41
3. プログラムの推進体制	67
4. プログラムの進捗管理	68

はじめに

1. プログラム 2025（2023 年改訂版）の背景と趣旨

中部山岳国立公園南部地域（以下、本地域という）は、「日本アルプス」として知られるように日本を代表する山岳地帯である。また、日本式のアльピニズムの文化が発祥した地であり、古来より山岳と人との関わりや共生の歴史を持つ地域でもあるため、インバウンドはもとより国内観光の受入先としてのポテンシャルは国内でも屈指であると考えられる。

本地域では、「中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム 2020（以下、プログラム 2020 という）」を策定し、地域の関係機関による協働の下、2018 年度（平成 30 年度）から 2020 年度（令和 2 年度）までの 3 年間、利用推進に関する取組を実施してきた。

さらに、2020 年度（令和 2 年度）には、本地域が新型コロナウイルス感染症拡大後のニューノーマル時代に対応した、世界水準の国立公園エリアとなることを目指して「プログラム 2025」を策定し、上質な受入環境とホスピタリティを整えるとともに、保護と利用の好循環を創出するための目標とプロジェクトを取りまとめた。

今回の改訂では、本地域の多様な関係者が推進してきた「プログラム 2025」の中間評価を行い、プロジェクトの進捗と成果・課題を振り返ることで、プログラム 2025 の目標と事業の見直しを行う。

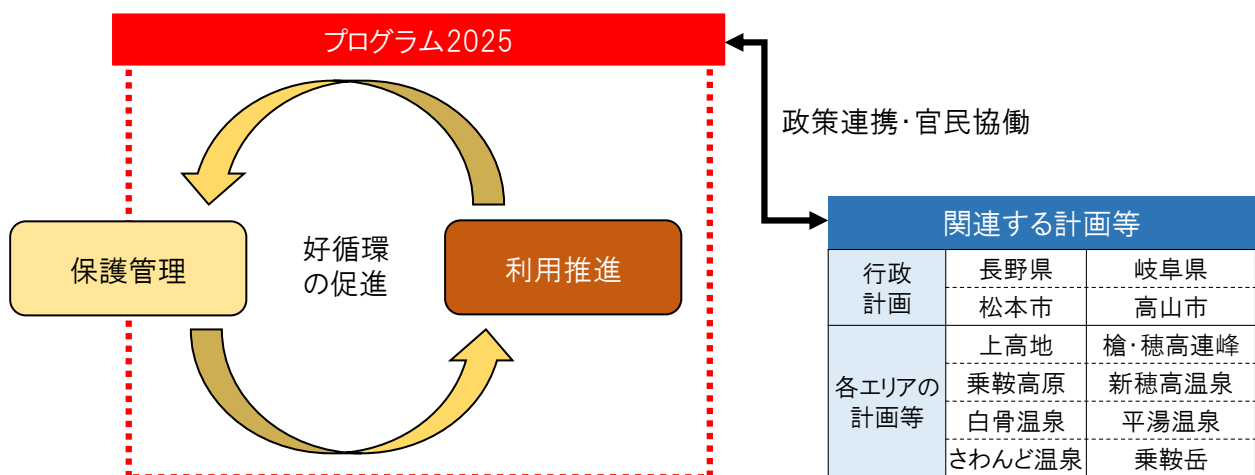
2. プログラム 2025 の役割

国立公園は傑出した自然の風景地を我が国の宝として将来世代へ引き継ぐ役割を担っている。これを保護し、利用の増進を図り、利用者の保健、休養及び強化に資するとともに、生物多様性を確保することが国立公園の社会的使命である。

「最大の魅力は自然そのもの」を大前提とした上で、魅力あるディステーションとして国立公園の価値を核として地域の適正で上質な利用の推進を目指していく。自然環境に過剰な負荷を与え、自然資源を消費し後退させるような利用のあり方は持続可能とはいえない。利用による負荷を最小限に留め、そこでやむを得ず発生する負荷を相殺すべく、「利用」で得られた対価を「保護」のための活動にあて、その活動を進めることで上質な自然を保ち、かつ魅力を維持・向上することで「利用推進」が発展する、という好循環を生み出していく。

プログラム 2025 は、中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会（以下、「本協議会」という）の構成員の協働により推進していく上述の目標に沿った各種プログラムの実施にあたり、目指すべき方向性等をまとめることで意識をひとつにし、関連する計画等との連携や官民協働を通じて実施していくために策定するものである。なお、利用推進にあたり、関連計画において、その取組の進捗が図れるものについては、本プログラムに記載はするものの、進捗管理は関連計画に委ねることとする。

＜プログラム 2025 の役割と連携・協働体制＞



3. 本地域の特色

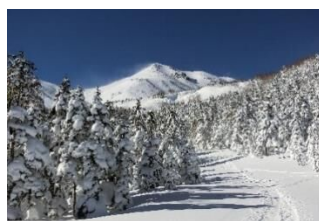
中部山岳国立公園は昭和9年12月に指定された、山岳の国立公園である。特に長野県と岐阜県の2県にまたがる本地域は、槍・穂高連峰を中核とする急峻な山岳や、活火山である乗鞍岳や焼岳、さらにはその周囲に広がる温泉地や高原を含み、日本を代表する山岳地帯といえる。その麓で暮らす人々の生活やかつての山岳信仰が文化として今に受け継がれている。さらに19世紀後半にはイギリス人宣教師ウォルター・ウェストンが本地域一帯を「Japanese Alps」として世界に紹介し、西洋式の登山文化を我が国に持ち込んで以来、本地域には日本独自のアルピニズムが発祥し、今なお根付いている。こうした背景から、本地域は中部山岳国立公園における核心部というだけでなく、日本を代表する山岳のディスティネーションでもあり、固有の価値と魅力を持った地域である。

地域は広大な面積と大きな標高差を持つことから、変化に富んだ原生的自然と季節感を有している。標高や地形・地質に応じて特徴的な植物相がみられ、高山植物群落をはじめ河畔林、半自然草地、湿生植物群落等の多様な植生が形成されている。豊かな植物相に応じて、多様な動物の生息があり、ツキノワグマやニホンカモシカなどの大型哺乳類のほか、ライチョウやホシガラスなどの鳥類、希少な高山蝶等が分布している。また、本地域は東京や名古屋などの大都市圏からのアクセスが良く、山岳道路やロープウェイ等を使って日本を代表する自然景勝地へ比較的容易に到達できる。さらには、露天風呂数が日本一と言われる奥飛騨温泉郷をはじめとする温泉保養地や内陸性のパウダースノーを楽しめるスキー場等の利用施設も充実している。季節や利用者の志向に応じて、本格的な登山から自然散策、温泉保養まで、多種多様な自然体験の機会を提供している。

こうした豊かな自然環境を持続可能とするために、我が国で最も古い自動車利用適正化事業（マイカー規制）の実施や、登山道の維持管理や景観保全等、古くから国行政機関、地方公共団体、地域住民、民間企業、NPO等の多様な関係者が協働して保護管理を行ってきた歴史も備えている。



上高地 河童橋と穂高連峰



冬の乗鞍岳



槍ヶ岳とライチョウ



乗鞍高原の水芭蕉



奥飛騨温泉郷 新穂高の湯



新穂高ロープウェイ

4. 本地域のエリア

(1) 各エリアの概要

本地域には、それぞれ独自の自然環境や歴史・文化を有し、国立公園の利用拠点となる8つの地区がある。本計画では、以下に示すこの8つの地区を「エリア」として定義し、エリアごとにも課題や取組を整理する。

① 上高地

周囲を取り囲む3,000m級の山々、河畔林、梓川の清流が相まって我が国の屈指の渓谷美を呈しており、多くの人々が訪れる自然景勝地となっている。槍・穂高連峰へ登る玄関口でもある。

② 槍・穂高連峰

日本のマッターホルンとも呼ばれる槍ヶ岳をはじめ、北穂高岳、涸沢岳、奥穂高岳、前穂高岳など3,000m級の高峰が連なる。山小屋など登山のためのインフラが整えられ、高山ならではの自然環境が多く、多くの登山者を引き付けている。

③ 乗鞍高原

乗鞍岳東麓に広がる標高1,200～1,800mの広大な高原。自然と人との関わりから生まれた草原的景観や溶岩台地の末端から流れ落ちる瀑布が特徴的。四季折々に楽しめるアクティビティの数々を提供しており、100軒近い旅館・ペンション等が立地している。また温泉地としても知られる。

④ 乗鞍岳

標高3,026mの剣ヶ峰を主峰とした山で、ハイマツ帯が広がっており、ライチョウの生息地としても知られる。日本一標高の高い車道である乗鞍エコーラインや乗鞍スカイライン（観光ルート名称「乗鞍ライチョウルート」）を利用して標高2,702mの畳平までバス等でアクセスできる。ヒルクライム利用の歴史も長く、近年はサイクリストも多い。

⑤ 白骨温泉

梓川支流の険しい谷の奥深くに位置し、古くから文人墨客にも愛された温泉保養地。旅館ごとに泉質や趣向の異なる温泉を提供している。カルシウム質が豊富な泉質や地質が特徴的で、特別天然記念物である噴湯丘や球状石灰石を有している。

⑥ 新穂高温泉

蒲田川沿いに広がり、開放的な露天風呂が多い温泉保養地。新緑、紅葉、雪景色など槍・穂高連峰の眺望を楽しめる新穂高ロープウェイには、年間を通じて多くの観光客が訪れている。槍・穂高連峰への西側の玄関口でもある。

⑦ 平湯温泉

奥飛騨温泉郷の中で最も山深く、戦国時代に白猿に導かれた武将が発見したという伝説を持つ温泉保養地。40の異なる源泉を各旅館が温泉として独自に供給している。高山市側から向かう本地域への玄関口であり、上高地をはじめ松本市側や富山県側への交通拠点にもなっている。

⑧ さわんど温泉

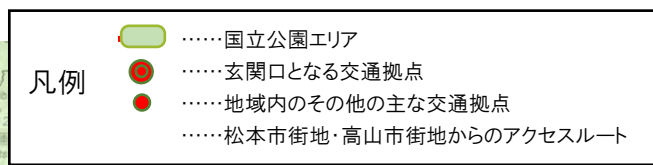
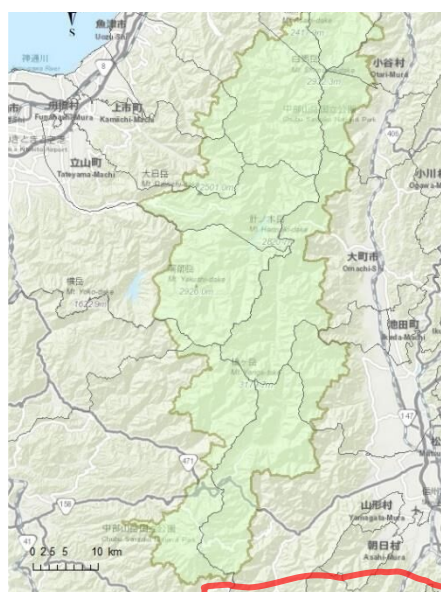
かつては飛騨国と信州国をつなぐ宿場町であり、20 世紀後半に温泉地として発展した。松本市側から本地域への玄関口であり、上高地をはじめ、乗鞍高原や白骨温泉、高山市側等へアクセスできる交通拠点でもある。

(2) 本地域の位置関係と主なアクセスルート

本地域の東には松本市街地、西には高山市街地がある。松本市街地・高山市街地はそれぞれ年間 400～500 万人規模の観光入込客を抱える観光地であり、松本市の「国宝松本城」や高山市の「古い町並」など国際的にも著名な観光スポットを有している。

本地域はこのふたつの観光地の中間に位置し、国道 158 号を通じてアクセスできる。松本市街地からはさわんど温泉エリアが、高山市街地からは平湯温泉エリアが地域の玄関口にあたり、それぞれ上高地バスターミナル、新穂高ロープウェイ、乗鞍岳畳平バスターミナルなど、地域内の主要な交通拠点とつながっている。さらに、松本市内には、空の玄関口である信州まつもと空港が立地しており、そこからのアクセスルートも視野に入れる必要がある。

中部山岳国立公園エリアの全体像



Sources: Esri, HERE, DeLorme, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community

第1章 プログラム 2025 開始後の利用及び取組状況

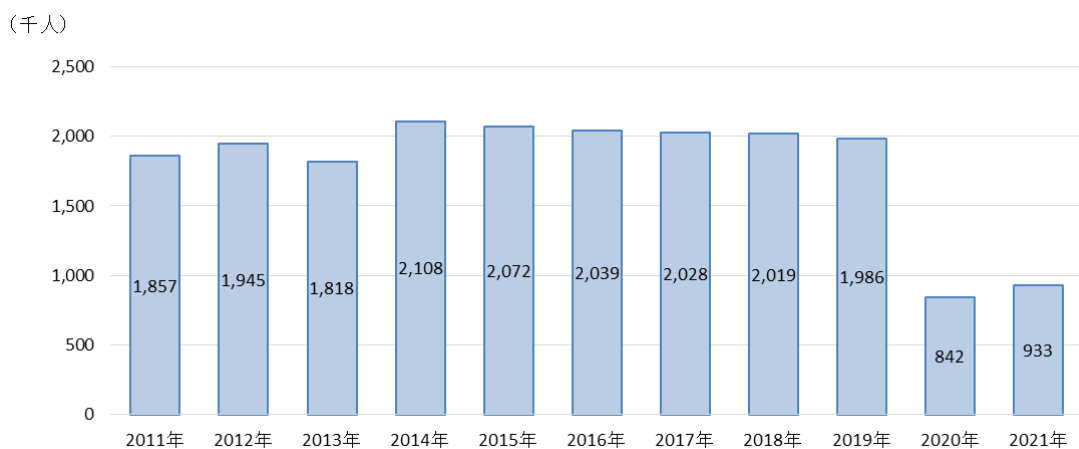
1. 現状分析

(1) 総利用者数

① 地域全体の総利用者数の推移（環境省自然環境局「自然公園等利用者数調」による）

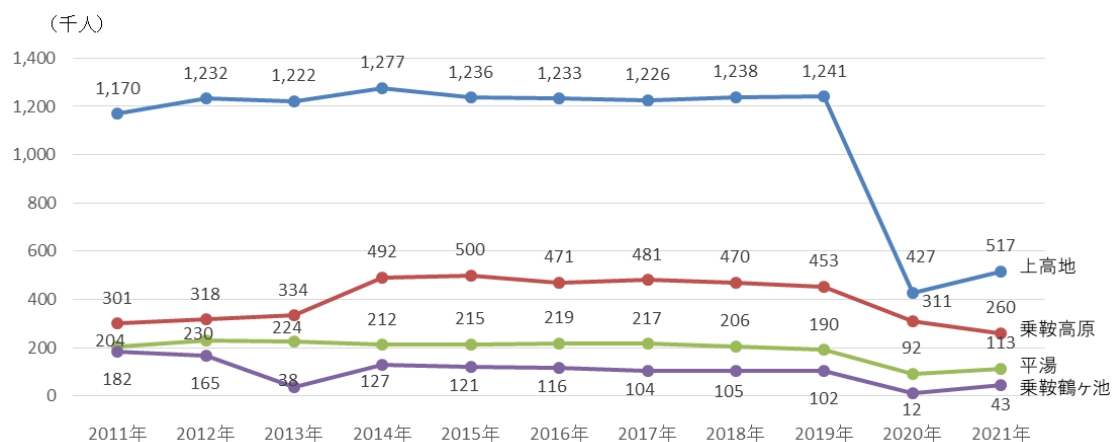
本地域全体の総利用者数の推移をみると、2014年（平成26年）から2019年（令和元年）にかけては200万人前後で推移してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年（令和2年）、2021年（令和3年）は100万人を割り込んだ。地点別では、上高地で落ち込みの影響が大きい。

<中部山岳国立公園南部地域 総利用者数の推移>



出典：環境省自然環境局「自然公園等利用者数調」(2023年)
(上高地、乗鞍高原、平湯、乗鞍鶴ヶ池の各集団施設地区等における利用者数を合計した)

<中部山岳国立公園南部地域 総利用者数の推移（各調査地点別）>



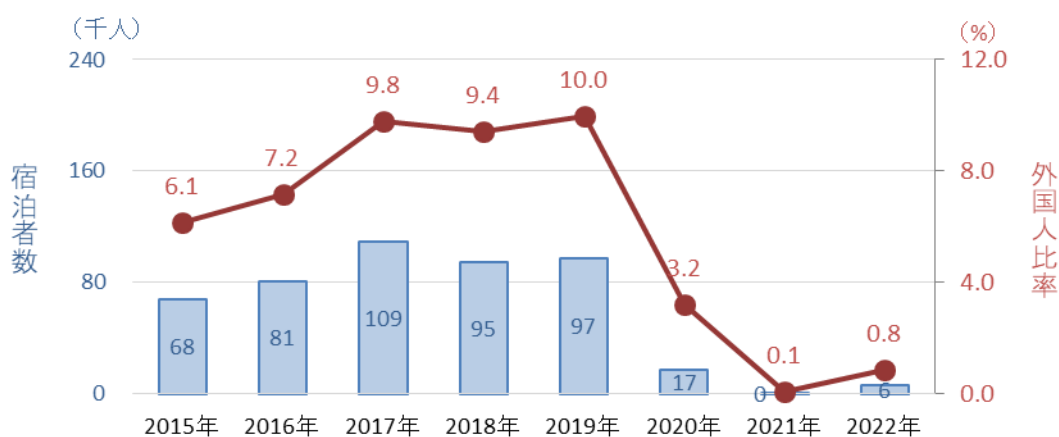
出典：環境省自然環境局「自然公園等利用者数調」(2023年)

② 外国人利用者数の推移

本地域の外国人利用者数の推移について、宿泊者数の統計では、2015年（平成27年）以降順調に増加し、2017年（平成29年）には約10万9,000人を数えた。その後は9万人台後半で推移していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年（令和2年）以降は激減し、2022年（令和4年）で約6,000人となっている。

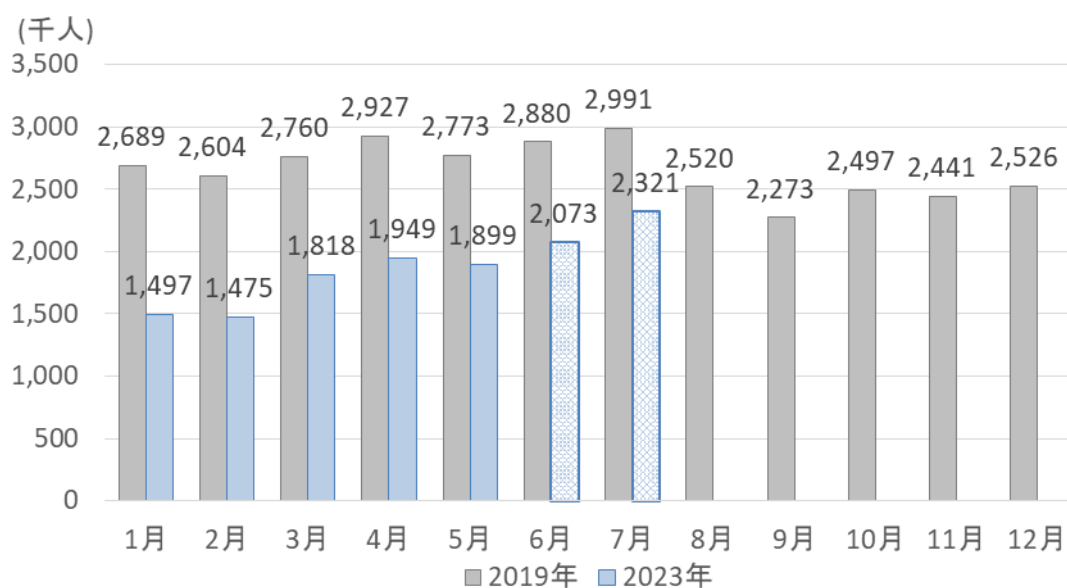
なお、2022年10月以降、海外からの個人旅行が再開され、訪日外国人数は2023年（令和5年）には、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年（令和元年）の7割程度まで急激に回復を見せている。日本旅行人気は依然として高く、本地域においても急速な外国人利用者数の回復と増加に備える必要がある。

<中部山岳国立公園南部地域 外国人宿泊者数の推移>



出典：高山市統計・松本市統計（高山市「上宝地区」及び松本市「上高地」「乗鞍高原・沢渡」「白骨温泉」「北アルプス（山小屋）」それぞれの宿泊者数を合算した）

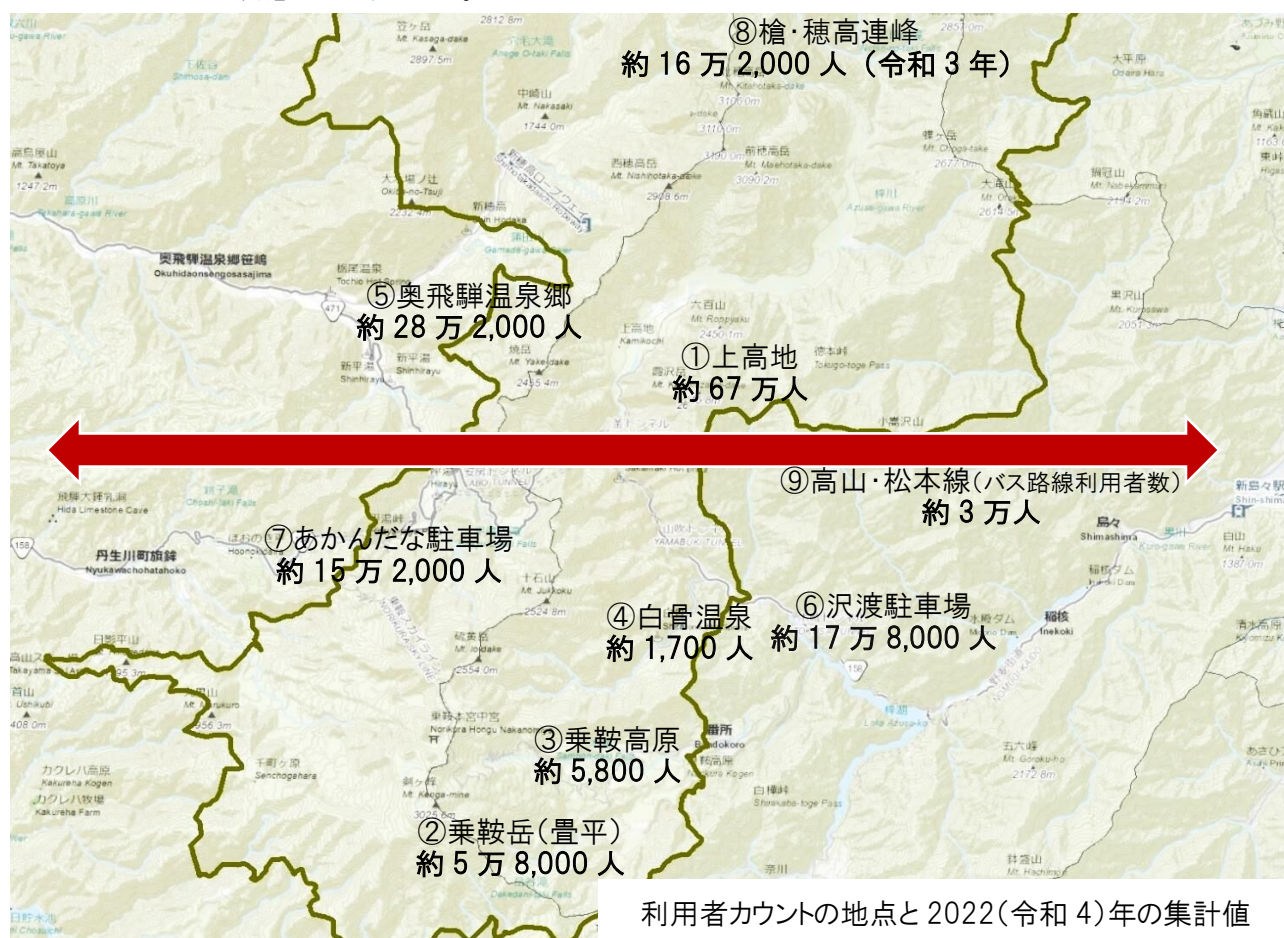
<2023年の全国の訪日外国人数 2019年比>



出典：日本政府観光局(JNTO)「2023年 訪日外客数(対2019年比)」2023年6～7月は推計値

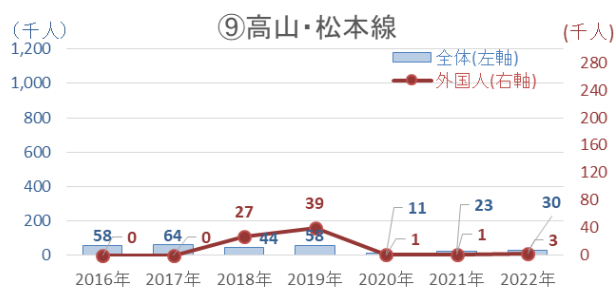
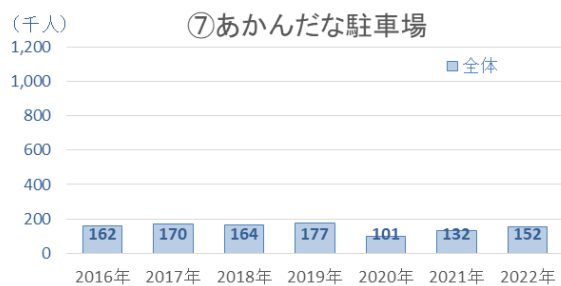
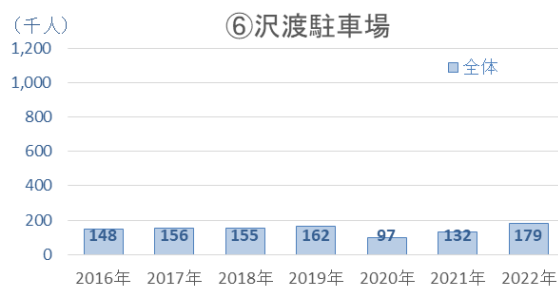
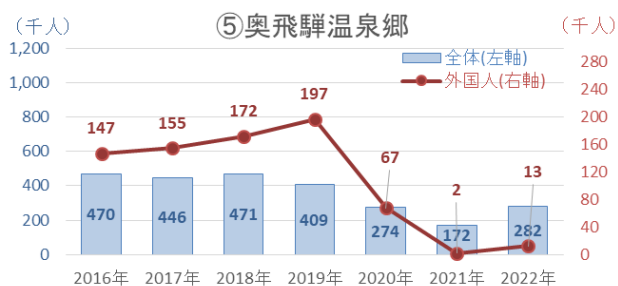
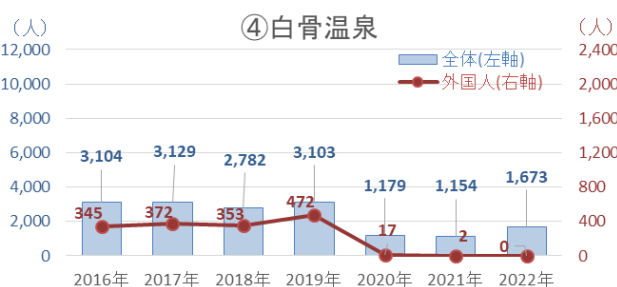
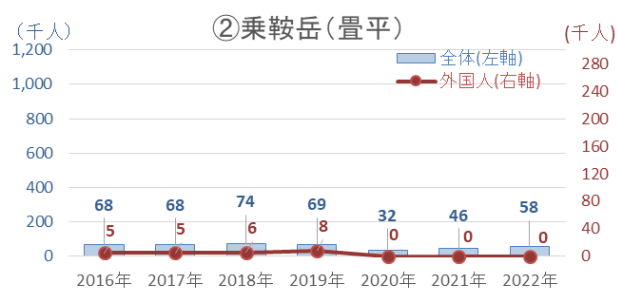
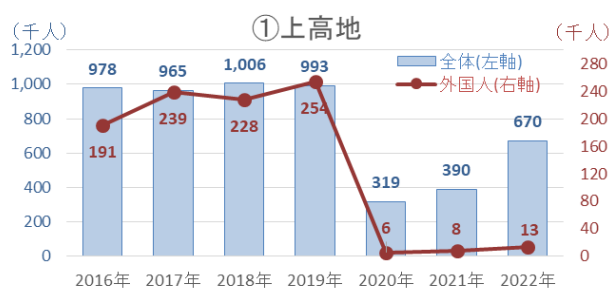
③中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会による利用者数カウント

中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会では、外国人を含む利用者数の推移をより正確に把握するために、交通機関利用者数を主としたカウント手法の構築を行っている。下に、2022年（令和4年）にカウントした利用者数を示す。ただし、以下の数値は、各地点や交通手段等における外国人利用者数をカウントすることを目的に収集した数値を、エリアごとに足し合わせたものであり、この数値のみによりエリアの利用者数は判断できない場合があることや単純な合計値ではないことに留意が必要である。



地点	カウント手法	
①上高地	右の数値を合算	・上高地発着の路線バス・シャトルバスの利用者数 ・上高地駐車場への観光バス入込車両数からの推計値 ・沢渡ナショナルパークゲートでのタクシー・乗用車(入込許可者)利用数からの推計値
②乗鞍岳(畳平)	右の数値を合算	・畳平発着の路線バス・シャトルバスの利用者数 ・乗鞍スカイラインの自転車入込数からの推計値
③乗鞍高原	路線バス乗鞍線の利用者数	
④白骨温泉	路線バス白骨温泉線の利用者数	
⑤奥飛騨温泉郷	右の数値を合算	・路線バス平湯・新穂高線の利用者数 ・新穂高ロープウェイ利用者数
⑥沢渡駐車場	大型バス、マイクロバス、乗用車、バイクの各駐車券発行枚数	
⑦あかんだな駐車場	大型バス、マイクロバス、乗用車、バイクの入込台数からの推計値	
⑧槍・穂高連峰	右の数値を合算	・長野県側からの登山者数(長野県による登山届出数) ・岐阜県側からの登山者数(岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会公表値)
⑨高山・松本線	路線バス高山・松本線の利用者数	

＜中部山岳国立公園南部地域 利用者数の推移（全数及び外国人数）＞



注)③乗鞍高原、④白骨温泉は
軸の単位がその他のグラフと異なる

出典: 中部山岳国立公園南部地域利用者数カウント

（３）利用者アンケートの結果

本地域では、利用状況を定点調査するため、2018年度（平成30年度）以降、利用者を対象とした同内容のアンケート調査を継続的に実施している。

なお、2018～2019年度（平成30～令和元年度）は、環境省による全国の主要国立公園を対象とした調査であったが、2021年度（令和3年度）以降は独自調査として実施した¹。

＜2020年度以降のアンケート調査の実施方法＞

対象者：中部山岳国立公園南部地域を訪れた利用者

対応言語：日本語 英語、中国語（簡体語・繁体語）、韓国語

調査期間：夏・秋・冬

方 法：Web形式 利用者自身でQRコードを読み取り、スマートフォン等で回答

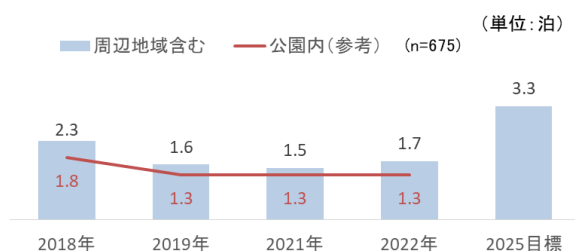
回答数： 2021年：1244件 2022年：790件

①平均宿泊日数（周辺地域・公園内）

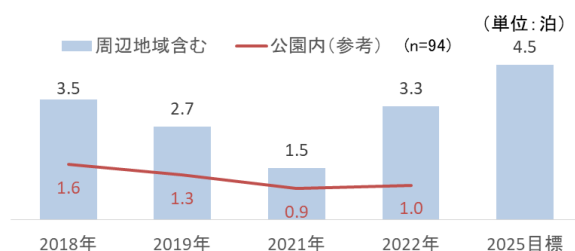
日本人旅行者では伸び悩みが見える。日本人旅行者は比較的公園内で宿泊しているのに対して、外国人は周辺地域での宿泊が多くなっている。

外国人旅行者の周辺地域を含む宿泊日数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつあるが、公園内の宿泊の回復は鈍い。

＜日本人旅行者＞



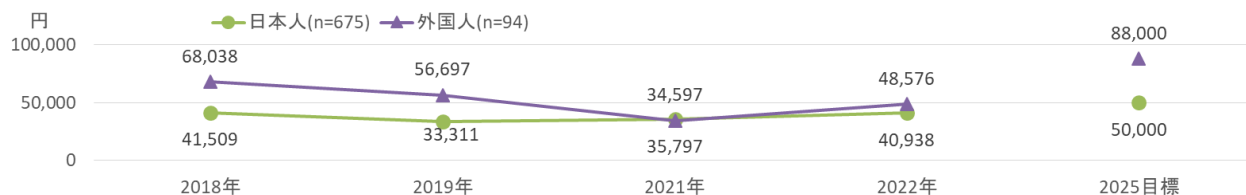
＜外国人旅行者＞



¹ 2020年度以降とそれ以前では、共通の質問項目を設定し、アンケートを実施しているが、アンケート依頼の告知場所の違いによって日帰り・宿泊の比率が変わっている可能性があり、集計結果にもこの変更による影響が生じている可能性があることに留意する必要がある。

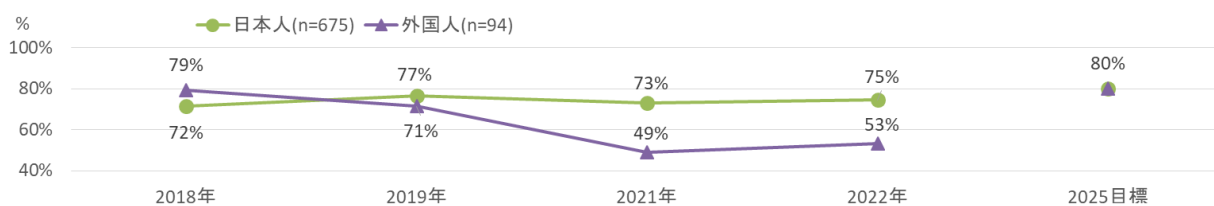
② 1人当たり消費額

宿泊数の減少に伴い消費額は減少傾向だったが、2022年（令和4年）はやや回復を見せている。外国人については、まだ目標額との乖離が大きい。



③ 本地域が国立公園であることの認知度

日本人の認知度は80%弱で横ばいだが、外国人は認知度の大きな低下傾向が見られる。コロナ禍が続く中で、本地域を訪れる外国人利用者の属性が変化してきた可能性がある。



出典:環境省「国立公園訪問者アンケート」(2018年度)

2. プログラム 2025 の中間評価

(1) 「利用の質」に関する目標

<「利用の質」に関する目標の達成状況>

	単位	区分	基準値	実績値		目標値	達成率	達成率
			A:2019 年度	B:2021 年度	C:2022 年度	D:2025 年度	B/D	C/D
1)1 人当たり消費額	円	日本人	41,509	35,797	40,938	50,000	71.6%	81.9%
		外国人	68,038	34,597	48,576	88,000	39.3%	55.2%
2)平均宿泊日数 (周辺地域含む)	泊	日本人	2.3	1.5	1.7	3.3	45.5%	51.5%
		外国人	3.5	1.5	2.1	4.5	33.3%	46.7%
【参考】1 人 1 泊 当たり消費額	円	日本人	18,047	23,865	24,081	15,152	157.5%	158.9%
		外国人	19,439	23,065	23,131	19,556	117.9%	118.3%
3)国立公園で あることの認知度	%	日本人	71.6	73.1	74.5	80.0	91.4%	93.1%
		外国人	79.2	49.0	53.2	80.0	61.3%	66.5%

出典：2019 年度：環境省：国立公園訪問者アンケート／2022 年度 南部地域利用者アンケート

「利用の質」に関する数値目標の達成状況を確認すると、以下に示す結果となった。

1) 1 人当たり消費額

2021 年度以降、消費額は回復傾向にあるが、2025 年目標の達成率は、日本人で約 8 割、外国人では約 6 割となっている。平均宿泊日数がコロナ禍前の水準まで戻っていないことが主要因と考えられる。

なお、1 人 1 泊当たり消費額を見ると、日本人・外国人ともすでに目標値を超えている。要因の一つとして全国旅行支援などの公的補助が消費を後押しした可能性がある。

2) 平均宿泊日数

平均宿泊日数についても 2021 年度以降、回復傾向にあるが、日本人は目標の約 5 割、外国人は 5 割以下に留まっている。近場からのマイクロツーリズムの増加による日帰り率の増加、インバウンドの減少などが要因と考えられる。

3) 国立公園であることの認知度

2020-2021 年度にかけては、日本人の達成率は 9 割を超えている。外国人については、達成度 6 割程度となっており、日本人と比較すると低い状況である。

(2) 「利用者数」に関する目標

1) 総利用者数に関する目標値

①利用者数

2020-2021 年度にかけては、いずれのエリアにおいても利用者数が回復している。目標の達成率をみると、上高地・新穂高ロープウェイでは6割程度、乗鞍岳・畳平では8割近くになっている。

<利用者数（入込数）の数値目標>

エリア	単位	基準値	実績値		目標値	2021 年 達成率 B/D	2022 年 達成率 C/D
		A:2019 年	B:2021 年	C:2022 年	D:2025 年		
上高地	千人	993	390	670	1,092	35.7%	61.4%
乗鞍岳・畳平	千人	69	46	58	76	60.5%	76.3%
新穂高ロープウェイ	千人	333	130	214	366	35.5%	58.5%

出典：中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会による利用者数カウント

②利用の平準化に関する目標

8月以外の利用者割合は上昇し、分散化が進んでいる。乗鞍岳・畳平は目標を達成している。新型コロナウイルス感染症の影響により、観光においても密な状態を避けるニーズが高まっていることなどが影響していると考えられる。

コロナ禍が収まり、利用者数が以前の水準以上に回復しても、利用の平準化が継続されるか、割合が上昇していくのか注目される。

<年間利用者数に占める8月以外の利用者割合>

エリア	基準値	実績値		目標値	達成率 C/D
	A:2019 年	B:2021 年	C:2022 年	D:2025 年	
上高地	79.9%	81.9%	79.5%	82.0%	97.0%
乗鞍岳・畳平	57.3%	72.0%	66.5%	61.0%	109.0%
新穂高ロープウェイ	85.2%	86.7%	85.1%	88.0%	96.7%

出典：中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会による利用者数カウント（新穂高ロープウェイのデータは2018年度）

2)外国人利用者数に関する目標

本協議会の独自カウントによると、2019 年度（令和元年度）時点で各エリアへの外国人入込み者数を合計するとおよそ 46 万人であった。この水準に回復させることを目標としたが、新型コロナウイルス感染症拡大による海外からの渡航制限が続いたため、2022 年（令和 4 年）までの外国人の利用状況はどのエリアでも目標の 5%以内に留まっている。

＜外国人利用者数に対する目標＞

エリア	単位	基準値	実績値		目標値	達成率 B/D	達成率 C/D
		A:2019 年	B:2021 年	C:2022 年	D:2025 年		
上高地	千人	254	8	13	254	3.1%	5.1%
乗鞍岳・畳平	千人	8.4	0.2	0.3	8.4	2.4%	3.6%
乗鞍高原	千人	2	0.06	0.05	2	3.0%	2.5%
白骨温泉	千人	0.5	0.002	0	0.5	0.4%	0.0%
奥飛騨温泉郷	千人	197	2	13	197	1.0%	6.6%

出典：中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会による利用者数カウント

(3) プログラム 2025 の中間年までにおける取組状況と課題

「プログラム 2025」は、以下の施策体系のもと、それぞれ【全域推進プロジェクト】および【個別エリア推進プロジェクト】としての事業展開に取り組んでいる。

世界水準の山岳国立公園の実現（松本高山 Big Bridge 構想実現プロジェクト）

- A. ブランディング・プロモーション
- B. 保護と利用の好循環
- C. 利用促進
- D. 保護・管理

以下、それぞれの施策ごとに、中間年までにおける取組状況と残された課題を示す。

世界水準の山岳国立公園の実現（松本高山 Big Bridge 構想実現プロジェクト）

松本高山 Big Bridge 構想として国立公園と松本市―高山市をつなぐエリアをプロデュースし、共通コンセプトに基づいて、長期滞在、周遊観光のための環境整備、コンテンツの開発や磨き上げに取り組む。

協議会構成員からプロジェクトチームを設立し、協働型で事業を推進する。

【全域推進プロジェクト】

取組状況	残された課題
① Big Bridge 構想実現に向けた基盤・体制整備 ・松本高山 Big Bridge 構想実現プロジェクトチームを発足させ、トライアングル構想、松本高山間のロングトレイル検討、モデルルート開発等の個別のプロジェクトチームを組織した。 ・松本高山 Big Bridge 構想のビジョン・ストーリー等を定めた基本計画・実施計画を策定。計画に基づき認知に係る情報発信等に取り組み、「Kita Alps Traverse Route（北アルプス・トラバースルート）」というルート名称をキャンペーン形式で公募・決定し、公表した。	・Kita Alps Traverse Route を都市と自然の総合循環型観光圏として確立する取り組みが求められる。 ・ルートを移動するロングトレイル等、エリア内を満喫できる商品等の開発、プロモーション、販売が今後の課題。 ・エリア内を横断する多様な移動手段の確立に向けて商品開発や販売体制（地域 DMO／DMC）の組成が今後の課題。

A. ブランディング・プロモーション

南部地域の共通のコンセプトに基づき、各構成員が統一的にプロモーションや商品開発を行うことで、本地域の価値を世界の旅行市場においてブランディングする。またこのために、様々な情報媒体の作成と運用、公園内外の幅広い拠点・施設の活用、関係主体間の連携などを通じて、南部地域のプロモーション活動や商談会・展示会等への参加を積極的に行う。

【全域推進プロジェクト】

取組状況	残された課題
② 南部地域のブランディング ・ロゴマークの活用やポータルサイトの拡充、これを活かした情報の一元的発信を実施。また特徴的デザインのポスターやロゴを使ったノベルティ作成等を進めている。ロゴマークの活用事例は2023年11月時点で45件。	・ポータルサイトの協働型運営や、これを活用したデジタルマーケティングは、広域での観光地づくりとあわせて今後の検討課題。
取組状況	残された課題
③ 南部地域のプロモーション ・構成員ごとに動画や冊子等を作成し国立公園プロモーションを展開。各種媒体や、バス・サイネージ等の活用も進んでいる。 ・国立公園パートナーシップ各者との意見交換を行うなど、地域内外の企業・団体等と連携した活動の拡充が模索されている。	・各種媒体（動画やパンフレット等）が制作されたものの、これらをターゲットに届けるための取り組みや、公園全体のプロモーションになるよう構成員同士での協力体制構築（広域連携、DMO体制構築等）、活用面では課題が残る。 ・パートナー同士や、パートナーと地域との連携を促す仕組みづくりが必要。
④ 商談会・展示会等への参加 ・タリフ（岐阜県観光連盟）やエクスカッションシート（松本市アルプス山岳郷）など、ツール制作が進められている。	・商談会等に向けた、南部地域としての協力体制は不十分。各構成員による商談会や展示会参加はされているので情報共有を含めた協力体制づくりが課題。

【個別エリア推進プロジェクト】

取組状況
●乗鞍岳ルートの一統プロモーション（平湯、乗鞍高原、乗鞍岳） 「乗鞍ライチョウルート」と命名し、Web 情報一元化やパンフレット配布などの情報発信施策を展開。今後もさらなるプロモーションと商品販促を進める。
●飛騨山脈ジオパーク構想の推進（平湯、新穂高、乗鞍岳） 飛騨山脈ジオパーク推進協会が設立され、県・市・観光協会等の連携のもと、プロモーション活動や体験コンテンツづくりを開始している。
●さわんど温泉エリアの将来ビジョンの策定（さわんど） さわんどでは将来ビジョンと将来構想図を策定、さわんどを滞留拠点とするための市営駐車場再開発や「古道アドベンチャーツアー」など新たな魅力創出に取り組んでいる。
●ONSEN・ガストロノミーツーリズムの普及・推進 コロナ禍で中断を余儀なくされており、その影響を脱した後の再開と商品販売が検討課題。
●アルプス山岳郷におけるSDGsの取組の推進（上高地、槍穂高、乗鞍高原、白骨温泉、さわんど） 広域の動きはないが、乗鞍高原ではゼロカーボンパークとして設備導入支援、水力発電所の建設計画、木の駅事業などが進んでおり、山岳郷としての宣言や取組の周知等が今後の課題。
○その他の取組み のりくら高原ミライズ（乗鞍高原）や、上高地ビジョン（上高地、槍・穂高連峰）など、各地区のプロモーション・ブランディングに係る計画が策定され、関係者で共有されている。

B. 保護と利用の好循環

国立公園の価値を活かし、環境負荷を抑えて付加価値の高い体験コンテンツを提供することを通じて、保護と利用の好循環を生み出す。また脱炭素など環境問題に対応したサステナブルツーリズムを推進し、利用者の理解・協力も得ながら保護と利用を進めていく。

【全域推進プロジェクト】

取組状況	残された課題
⑤ 上質なコンテンツの開発・磨き上げ ・五色ヶ原の森の環境学習、自然公園財団等上高地でのネイチャーガイド、飛騨山脈ジオツアー、乗鞍E-Bike ツアーなど、様々なエコツアー、アドベンチャーツアーが開発されている。 ・エコツーリズム推進のプロジェクトチームが設置され、研修や情報共有が進んでいる。	・体験コンテンツでは担い手確保が地域共通の課題。今後は特に海外ニーズに応じ多言語対応できる高水準人材が必要となっている。 ・コンテンツ提供事業者と、宿泊事業者やプロモーションを行う団体等の連携を進め、顧客獲得につなげるのが課題。 ・山岳コンテンツ、ラグジュアリー体験は大きな成果がなく、登山環境では駐車場や登山道など環境整備も課題となっている。 ・長期滞在を推進する基盤が整っていない。
⑥ サステナブルツーリズムの実現 ・サステナブルツーリズム研究チームが設置され、研究を進めている。 ・「乗鞍のゼロカーボンに触れる旅」では商品化に向けたモニターツアーを実施。	・資源の商品化が進み始めているが、継続的な商品販売は今後の課題。また商品販売を通じて国立公園のブランディングにつなげることも求められている。 ・地域内での人材、資源等の循環に向けた取組を実施していくことが必要。

【個別エリア推進プロジェクト】

取組状況
●利用者負担の仕組みづくり（上高地・槍穂高・乗鞍岳） 「北アルプス登山道等維持連絡協議会」による利用者負担の取組が開始された。継続的な仕組みづくりと認知度向上に向けて事業が進んでいる。 上高地観光旅館組合による寄付型商品である「稜線バタークッキー」が開発され、販売されている。
●混雑の解消と年間利用平準化の推進（上高地） 上高地バスターミナルでの上高地発新島々行きの「全便予約制」、上高地駐車場の混雑予想のHP公開等を継続、閑散期への誘客キャンペーンも実施しており、今後もさらなる取組によって利用平準化の効果を出すことが求められている。
●上質なネイチャーガイド／自然体験のプログラム開発（上高地・乗鞍高原） 上高地ではジオツアー、明神池親子トレッキングガイド等を開発。乗鞍高原では岐阜大学と連携したゼロカーボンに係る楽しみ方の開発を行っている。
●上質なエコツーリズムの推進（乗鞍岳） 「乗鞍岳エコツーリズム推進全体構想」のもと、自然観察教室、カメラマン同行ツアー、E-Bike ツアー、バスツアーなど各種コンテンツを開発。今後はガイド・事業者の確保育成が課題。
●野生動物の出没情報の収集・発信（上高地） クマ出没情報の共有、Web 等の注意喚起を継続。野生動物対策専門員（環境省・自然公園財団）の配置や利用者への啓発活動を実施しており、今後も継続して対策を実施していく。
●ワーケーションに適した地域づくりの推進（平湯、乗鞍高原、白骨温泉） 平湯、乗鞍高原、白骨温泉のそれぞれで検討が始まった段階で、具体的な取組はまだ。今後は商品開発・販売や、そこからの関係人口創出等の成果を出すことが求められる。
●高山市街地と連携した体験コンテンツの開発（平湯） 具体的な動きはこれからで、広域で動ける事業者や人材の確保育成が課題。

●温泉地を拠点とした魅力的な体験プログラムの開発（白骨温泉、さわんど）

さわんどでは将来ビジョンと将来構想図を作成。沢渡起点の古道アドベンチャーツアー開発等の動きを継続し、プログラムのさらなる開発・販売を予定。白骨温泉ではソフト事業開発の検討チームが設置され、環境保全のための具体的な取組について検討を始めている。

C. 利用促進

南部地域へのアクセスしやすさや地域内での移動利便性、受入環境整備を進めるとともに、国立公園内を移動することの付加価値創出や環境負荷の低減を図る。

【全域推進プロジェクト】

取組状況	残された課題
⑦ バス移動にあたっての付加価値の創出 ・「ナショナルパークライナー」の命名や、バス車内での国立公園プロモーションを実施。 ・国立公園内の各種フリーパス乗車券も継続販売されている。	・外国人旅行者へのアピールの強化や、フリーパス等の購入環境整備が今後の課題。 ・バス車内で国立公園のルールなどを含めた案内については実施されているが、外国人旅行者を含め利用者へ届ける、伝えるという点において課題が残る。
⑧ 交通システム・アクセスルートの整備 ・各路線の「さわんどバスターミナル」乗入による沢渡の拠点化を実施。 ・松本市側・高山市側それぞれで自転車利用推進・適正化を継続的に実施。 ・タクシー協議会で稼働車両数の確保、上高地タクシーの定額運賃設定、濃飛バス観光ガイドタクシーの運行等を実施 ・ゼロエミッションに関連し、高山市の電気自動車急速充電器の設置、奥飛騨温泉郷による小型EVと電動自転車のレンタル、乗鞍高原での電動アシスト自転車などの取組を実施。	・少人数の路線やサービスは民間での継続運営が難しく、いかに軌道に乗せるかが課題。 ・繁忙期には、上高地・沢渡バスターミナル等でバス待ち時間が発生。バス待ち時間を解消可能な施設や雨天時の待合室等についても、設置について検討する必要がある。 ・松本・高山間のロングトレイルやサイクルツーリズムなどの動きとも連携し、南部地域内の移動環境整備と、移動することを楽しめるというコンテンツ開発を連動させることが求められる。
⑨ 外国人受入環境の整備 ・各地区でキャッシュレス対応、多言語表記を推進。環境省作成の英語解説文も活用。 ・岐阜県観光連盟では電子観光クーポン「ぎふ旅コイン」の普及を進めている。 ・高山市では地域通貨「さるぼぼコイン」が普及し、外国人観光客の融通性も高まっている。	・山小屋など携帯電波不良地域ではキャッシュレスの導入が難しく、キャリアへ働きかけも必要か。国立公園内でのATM設置も課題。 ・外国人利用者への事前情報提供も課題。装備や計画が不十分な登山による事故・遭難が危惧されている。

【個別エリア推進プロジェクト】

取組状況
●上高地・さわんど温泉・平湯温泉エリアにおける機能・魅力強化（上高地、平湯、さわんど） ●中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンターを軸とした国立公園ゲートとしての機能強化（平湯） ●沢渡ナショナルパークゲート等の国立公園ゲートとしての機能強化（さわんど） トライアングル構想のもとに3拠点の機能強化についての検討が始まった段階。平湯ではビジターセンター改修の計画を立案、2023年より着工。 ●新穂高ロープウェイ関連施設の整備・リニューアル（新穂高） リニューアル計画（PHASE2）が進み、山頂園地ではテラス新設や体験提供の取組も実施。 ●夏季繁忙期の駐車場混雑の緩和（新穂高）

駐車場新設と既存駐車場の機能向上の検討段階にある。

●鈴蘭地区及び一ノ瀬地区の面的な上質化（乗鞍高原）

検討段階。ゼロカーボンパークの拠点としての整備を行っていく方針。

●乗鞍岳を中心とした自転車利用適正化の推進（乗鞍岳）

自転車利用者からの寄付を活用した安全対策、紅葉時の駐停車規制、安全看板の設置、啓発パトロール等が進められている。今後は松本・高山においてそれぞれ自転車利用適正化を進める両協議会が連携し、足並みをそろえて情報案内や負担金徴収の仕組みの検討等を進めることが課題。

D. 保護・管理

まちなみ景観の形成、再生可能エネルギーの導入等によって、環境の保護・管理を適切に行う。

【全域推進プロジェクト】

取組状況	残された課題
⑩ まちなみ景観形成の推進 ・各地区で視察や検討会を実施。	・検討を踏まえ実践に移す段階にある。
⑪ RE100 の推進 ・沢渡・平湯における温泉熱利活用・脱炭素推進の検討協議を開始。	・検討を踏まえ実践に移す段階にある。

【個別エリア推進プロジェクト】

取組状況
●温泉地としてのまちなみ景観形成（平湯、新穂高、白骨温泉、さわんど） さわんどでの拠点整備計画立案などの動きがある。各地区で検討された内容をもとに、行政機関を含む関係主体の協力のもと、景観形成を実行することが求められる。 ○その他の取組み ・上高地マル集未来構想（上高地集団施設地区再整備基本構想） 構想策定時の議論をもとに、修景伐採やベンチの配置等の検討が始まっている。 ・乗鞍高原草原再生・景観形成 乗鞍高原の本来の景観再生を目指して修景伐採を実施。また草原景観が維持されることで絶滅の危機にある草原性の昆虫等を保全できることを学ぶ勉強会の開催等を実施している。

3. 関連政策の動向

プログラム 2025 は、本地域に関連する国行政機関や地方公共団体の関連政策と連携して推進する。各機関の主な関連政策を以下に示す。

(1) 環境省・観光庁

① 環境省

環境省では、2020 年の国立公園外国人利用者数 1,000 万人の達成を目標として、国立公園の国内外におけるブランド構築を推進する「国立公園満喫プロジェクト（以下、「本プロジェクトという」）」を展開してきた。2019 年では同利用者数約 667 万人を達成したが、2020 年には新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって激減した。この状況を踏まえて国内外の利用者の回復を図るために、2021 年度以降も「国立公園満喫プロジェクト」を継続し、新たな展開を図っていく。

同プロジェクトの目的は、「利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし、自然を満喫できる上質なツーリズムを実現」すること、また「地域の様々な主体が協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境の保護へ再投資される好循環を生み出す」ことである。このために、「国内の幅広い利用者層の誘客促進」と「ウィズ／ポストコロナ時代の新たなライフスタイルに合った国立公園の利用提供」に力を入れることとしている。

2021 年以降の方針は、「ウィズコロナ・ポストコロナ時代への対応」として、国立公園の新しい利用価値を提供することとしている。全 34 公園の底上げ・水平展開を行うこと、またこれまでの基本的な視点（最大の魅力は自然そのもの／人の暮らし・文化・歴史を有する自然との共生の姿／「体積」で考える／幅広い利用者層に対応／広域的な始点／サステナビリティ）の継続・重視、と大きく 3 つの方針を示している。

また、インバウンド再開を踏まえ本プロジェクトの更なる展開として、民間活用による国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組み、美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光の推進を図るとしている。その中で、本地域を含む 4 つの国立公園を滞在体験魅力向上のための先端モデル事業の対象として選定した。

② 観光庁

観光庁では、コロナ禍による変化やコロナ禍前からの課題を踏まえ、我が国の観光を持続可能な形で復活させることを目指し、2023 年度（令和 5 年度）～2025 年度（令和 7 年度）を計画期間とする観光立国推進基本計画（第 4 次）を策定した。基本計画は「持続可能な観光」「消費拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、持続可能な観光地づくり、インバウンド回復、国内交流拡大に戦略的に取り組み、全国に観光の恩恵を行きわたらせることを目指すとした。

基本計画では、インバウンド消費 5 兆円、国内旅行消費 20 兆円を早期に達成するため、2025 年度（令和 5 年度）までに、訪日外国人旅行の消費単価を 20 万円／人、地方部宿泊数 2 泊、訪日外国人旅行者数 2019 年水準超え、日本人の地方部延宿泊者数 3.2 億人、国内旅行消費額 22 兆円とすることを目指すとした。

（２）長野県・岐阜県

① 長野県

長野県では、総合 5 か年計画である「しあわせ信州創造プラン 3.0」（2023 年度～2027 年度）において、目指す姿を「コロナ禍で停滞した観光交流が回復し、観光産業の活性化や地域課題の解決が図られ、暮らす人も訪れる人も長野県を楽しんでいる」と設定し、2020 年策定の「After コロナ時代を見据えた観光振興方針」に掲げる「安全・安心な観光地域づくり」「長期滞在型観光の推進」「信州リピーターの獲得」を共通視点に、各種観光施策を推進することとしている。具体的な目標としては、2027 年までに「県全体の観光消費額 9,000 億円」や、グリーンシーズンを含めた北アルプス地域の活性化「観光地延利用者数 702 万人（2021 年 411 万人）」等を掲げている。

また、「第五次長野県環境基本計画」（2023～2027 年度）を策定し、希少野生動植物の保護、登山道・トイレ・道標等の自然公園施設の整備、エコツーリズムの推進など、自然環境の保全や自然とのふれあいの推進に取り組むこととしている。

「長野県ゼロカーボン戦略」（2021 年策定）においては、「世界標準の RE100 リゾート」として、地域資源を再生可能エネルギーに活用した魅力的な観光地づくりを目指している。

② 岐阜県

岐阜県では、経済・雇用再生戦略の一環として、「世界に選ばれる持続可能な観光地域づくりプロジェクト」（2023～2027 年度）を新たな観光振興の実施計画に位置づけ、サステイナブル・ツーリズムの推進、観光人材の確保・育成及び生産性の向上、観光消費拡大に向けた誘客プロモーションの展開に取り組んでいる。主要指標として、2027 年度までに「観光消費額 3,600 億円（2021 年 1,721 億円）」、「観光入込客数 5,300 万人（2021 年 3,842 万人）」といった目標値を掲げている。本プロジェクトは「岐阜県第 2 期 SDG s 未来都市計画」（2023～2025 年度）、『「清流の国ぎふ」創生総合戦略』（2023～2027 年度）の各施策としても関連づけられている。

これを具体化するための「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画（2017 年度）」を作成し、令和 6 年に「第二次岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画（2024～2028 年度）」として更新した。本基本計画に関する取り組みを、高山市及び地元関係団体等で構成する「岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会」において推進している。

(3) 松本市・高山市

① 松本市

松本市では、新たな「松本市観光ビジョン（2024～2028 年度）」において、「あなたと“いきたい” まち」を目指す姿とし、「ひらく」、「かわる」、「すすめる」、「とどける」、「かせぐ」の5つの基本方針を定め、労働力不足への対応やD Xの導入、資源を未来に残す取組み等を、行政・観光関係団体・地域事業者が一体となって推進していくとしている。

また、「まつもとゼロカーボン実現計画（2022～2030 年度）」において、環境省にゼロカーボンパークとして認定された乗鞍高原では、小水力発電設備等の再生可能エネルギーの導入や電動モビリティの導入をはじめ、住民の暮らしや宿泊施設における脱炭素などの検討を重ね、脱炭素型モデル地区の実現を目指している。

② 高山市

高山市では、「高山市産業振興計画（2020～2024 年度）」において観光産業の振興施策の中で「自然環境や温泉資源の活用と山岳観光の推進」を掲げています。

この施策に基づいて、その後、「奥飛騨温泉郷活性化基本構想（2021～2030 年）」が策定・推進されています。また、山岳観光の推進、自然環境や地形地質遺産の保全と利活用による持続可能な地域づくりのための「飛騨山脈ジオパーク構想」が継続して推進されています。

乗鞍岳や乗鞍山麓五色ヶ原の森を中心した地域では、「乗鞍岳エコツーリズム推進全体構想（2024 年度～）」が策定され、環境省の認定を受けられる見込みとなっており、今後、自然資源の保護と適正利用を両立するエコツーリズムがより充実する予定です。

4. 今後取組を進める上で必要な観点

現状やこれまで進めてきた事業における課題等を踏まえ、今後の取組を進める上で必要な観点を以下に整理する。

●地球環境問題への対応を前提とした利用推進が必要

持続可能な観光地づくりは、もはや議論の余地はない。しかし、一朝一夕で実施できるものではなく、少しずつでも着実に前進させていくという意識を構成員全員が持ち、それぞれの事業の中でできることから取り組み、情報の共有をしていくことが必要である。

【前期の取組と課題】

- 前期では、個々の地域において、ゼロカーボンパークの認証・脱炭素先行地域の選定を受け、脱炭素先行地域の選定された乗鞍高原の再生可能エネルギー普及、さわんどの温泉熱利用の検討、奥飛騨温泉郷等でのEVや電動自転車のレンタルなど、環境問題へ対応する取組が進んだ。今後は、地域内でこうした成果を共有し、地域全体としての取組や情報発信として動きを加速させることが求められる。

●上質な利用のためのコンテンツ造成・販売・プロモーションを推進していくことが必要

前プログラムでは、本地域の特徴と強みを整理し、コンセプトとして具現化した。今後はこのコンセプトを活かし、地域資源の価値の本質が利用者に伝わるよう磨き上げを行い商品を造成・販売していくことが必要である。加えて、自然や地域の歴史の魅力を伝えることのできるガイド等の人材確保・育成を図ることで、グローバル化し多様化する利用者のニーズに対応できる上質なコンテンツを安定して提供できる体制を構築していくことが求められる。

【前期の取組と課題】

- 前期では、コンセプトを具体化するツアーコンテンツの試行が行われた。後期では、コンセプトの具体化にあたり地域資源の価値の本質をより明らかにし、利用者により伝わるよう整理した上で商品開発やその商品を提供する人材の育成に活かしていく必要がある。そして、継続的な販売・プロモーションに力を入れ、民間事業者の商品として自走させていくことが重要となる。また、良質なコンテンツの造成・販売のための知識・スキルを有した人材確保・育成も課題である。

●保護と利用の望ましい関係を構築していくことが必要

本地域の利用を推進していくことで、地域資源や自然環境の保護につなげる必要がある。このために、利用者に対し、協力を求める仕組みを構築していくことも求められる。現在、地域においては、このような保護と利用の好循環を構築する仕組みの検討が行われており、具体的な仕組みを実践に移していくことが必要である。

【前期の取組と課題】

- 前期には、登山道における環境整備などの利用者負担(寄付)の取り組みをはじめ、バス車内での適正な利用の呼びかけ、環境保全の啓発につながるエコツアー等のプログラム開発など、様々な形で

利用者への協力要請が進められてきた。後期では、利用者が保全活動に直接的・間接的に関わる方法を増加させるとともに、利用者負担を登山道の維持管理や、そのための人材育成等につなげることで、持続性の高い取組みとして定着・自走させていくことを目指す。

- 人慣れしたクマの増加により、公園内での目撃例が急増した。食品管理やクマ鈴携帯といった事前対策や、遭遇時の対応の徹底が求められる。また、サルなどの他の野生動物や植物を保全するためのルールや知識についても、利用者が多様化するなかで周知の徹底が必要である。

●利用の平準化を図りつつ、利用を推進していくことが必要

本地域の利用状況をみると、ピーク時には交通機関や駐車場のキャパシティを超えるほどの利用があり、時季や曜日によるギャップが大きい状況がある。混雑の回避は、環境に負荷をかけない利用の観点のほか、感染症拡大対策の観点からも重要である。加えて、安定的な需要創出や雇用確保につなげるためにも、閑散期の利用を促進し利用の平準化を図ることが必要である。

【前期の取組と課題】

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用者数が大きく減少する中で、結果として「利用の平準化」も進んだが、コロナ禍収束後の利用者数の急回復に備える必要がある。
- 前期では、上高地を中心に、整理券や予約制度、混雑予想などの平準化に向けた取組みが実施されている。
- 後期では、コロナ禍後の利用者急増が見込まれるなか、人手不足などの問題も顕在化していることから、一層の利用の平準化(通年での利用増)の努力が求められると併に環境負荷に配慮した適正人数の検討も今後は必要になると思われる。

●国立公園外との連携強化により国立公園の認知を高め、非日常の演出につなげることが必要

当地域の特徴のひとつとして、松本市、高山市の市街地からアクセスが容易であることが挙げられる。この特徴を活かし、国立公園外との連携を強化し、中心市街地からの利用者の動線を確保するとともに、国立公園に入るにあたって当地域が国立公園であることをしっかりと周知し、特別感、非日常感を持って、公園を訪れる仕組みづくりが必要である。

【前期の取組と課題】

- 前期では、松本高山 BigBridge 構想実現プロジェクトの推進を通じて、松本市・高山市の両市街地からの動線を意識した広域モデルコース、ロングトレイルの検討、イベントやキャンペーン等を通じた国立公園の価値のプロモーションが行われた。
- 後期では、松本高山 BigBridge 構想のもと、移動手段や上質なコンテンツをそろえることで実際の利用者の動きを引き出し、特別感・非日常感を得られるコンテンツを楽しんでいる状況をつくっていくことが求められる。

●コロナ禍を乗り越えた利用推進が必要

2020 年はコロナ禍の影響が大きく、観光産業に大きな打撃を与えたが、自然回帰や環境保護の社会潮流が世界的に広がったという側面もあるため、これらを新たな機会と捉え、密の回避や環境配慮といったことを想起させる国立公園というブランドを活用していくことが求められる。

【前期の取組と課題】

- 前期では、コロナ禍の影響もあって、サステナブルツーリズムなど環境配慮型観光への機運が上昇した。本地域においても、乗鞍高原ゼロカーボンパークを実質化する動きがでてきたところである。DX 化による効率化も一定程度進んだ。
- 後期ではコロナ禍後の利用者増が見込まれるなか、観光事業者の人材不足が深刻な問題となっていることもあり、環境負荷を抑えながらどのように利用者を受け入れる地域となるかあらためて検討していく必要がある。

●【新規】国立公園利用のルール・徹底が必要

国立公園の利用者を推進していく中で、原則となる利用のルール・マナーの周知とその徹底がより一層求められている。

山岳利用にあたっては、初心者による無謀な登山など、危険性に対する理解が不足している利用者が増加しつつあり、装備不足による重大事故の発生や救急救助が多発している。こうした事故が今後さらに増加することが危惧されており、旅行前の周知を含め、安全のための知識や装備、ルール等についての周知啓発、山岳利用としての心構えや準備が必要なエリアのゾーニング等が重要となっている。

また山岳地以外でも、とらない、もちこまない、立ち入らない、餌をやらない等のルールや、自然環境を楽しむマナーについて、地域全体として周知・徹底していくことが求められる。

こうした周知・徹底においては、日本人利用者に対するだけでなく、日本の「ルール・マナー」が十分に共有・認知されておらず、文化・言語の壁のある外国人利用者也想定した取組みが必要である。

【前期の取組と課題】

- 前期では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、登山者数が減少したが、感染症の収束とともに遭難件数が増加に転じている。登山時の心構えや装備、山小屋利用のルールなどについて、外国人利用者也含めた情報提供と啓発手段を具体化する必要がある。

第2章 プログラム 2025 の目指すもの

1. ビジョン～プログラム 2025 が目指すもの～

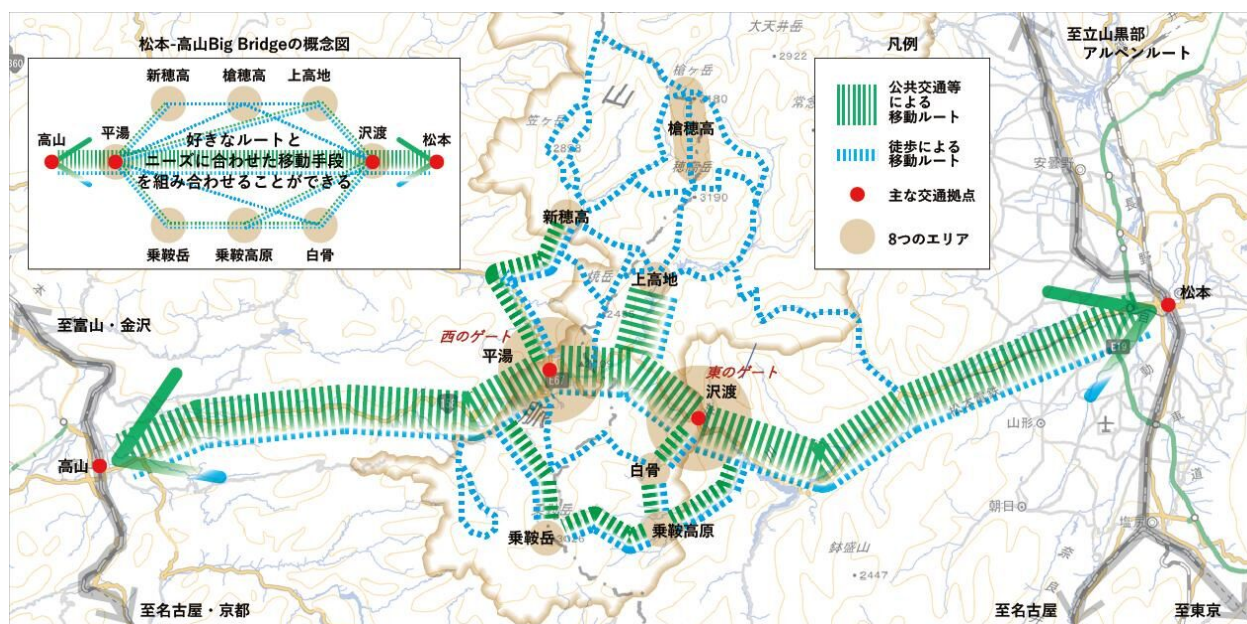
中部山岳国立公園の地域資源を最大限活用し、上質で多様な利用と滞在の提供を促進するとともに、2023年に決定した「Kita Alps Traverse Route」の名称を国内外の利用者に浸透させることで、「世界水準のディスティネーションの実現」を目指す。

松本高山 Big Bridge 構想

～「世界水準のディスティネーション」の実現を目指して～

国立公園地域の核心部である山岳と山麓地域を中心に、国内屈指の国際観光都市である高山市、国宝の松本城・旧開智学校のある松本市を繋ぐ行政区分にとらわれない横断的な地域を一つの観光圏と捉えた観光地経営を行うことで、多彩で上質な体験と滞在や、個人の志向による多様な移動手段などを、世界有数のナショナルパークのように自然を主に置いた観光地と並ぶ水準に磨き上げることで、世界水準のディスティネーションを実現していく。

この構想のもとに、各エリアに関わる事業者、関係機関などが連携し、本地域のファンとなり得る利用者とも協働することで保護と利用の好循環を生み出し、持続可能な地域を確立していく。



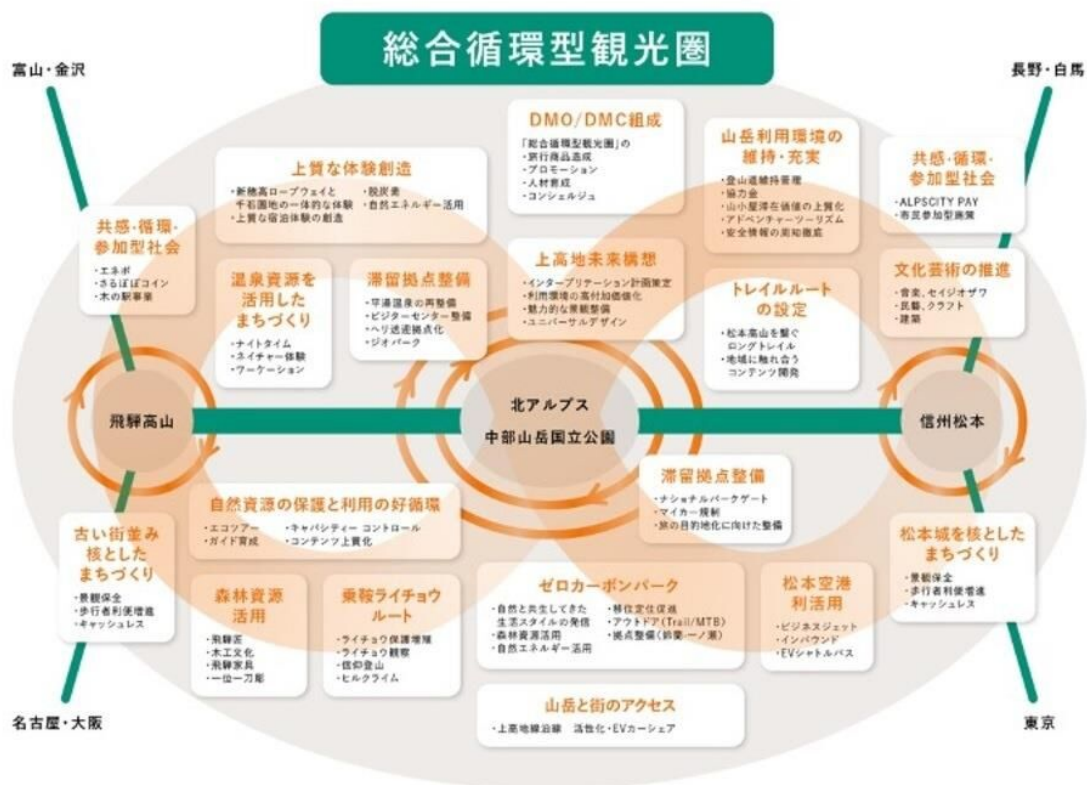
この構想をより多くの人に認知してもらえるよう、国内で確立している「Kita Alps（北アルプス）」という固有名詞を世界に広げること、及び「Traverse（トラバース）」という“山岳を横断する”という意味を伝える意図から、山岳と山麓地域、2つの都市圏を訪問するという特別感と特異性を感じられるものとして、上記エリアの名称を「Kita Alps Traverse Route」と定めた。

前提となる目標 持続可能な総合循環型観光圏の確立

本地域の構成員は、持続可能な観光の実現に向けた取組みを実践し、地球環境の保全に貢献する責務を負っている。実践活動を定着させることで、地球環境問題の解決に寄与するとともに、地域のブランド価値の向上を目指す。

また、利用と保全の好循環による持続可能な観光の実践を、山岳エリアに留まらず、高山・松本の地域全体にも広げていくことで、総合循環型観光圏を構築していくことを目指す。

<総合循環型観光圏の取組イメージ>



Kita Alps Traverse Route

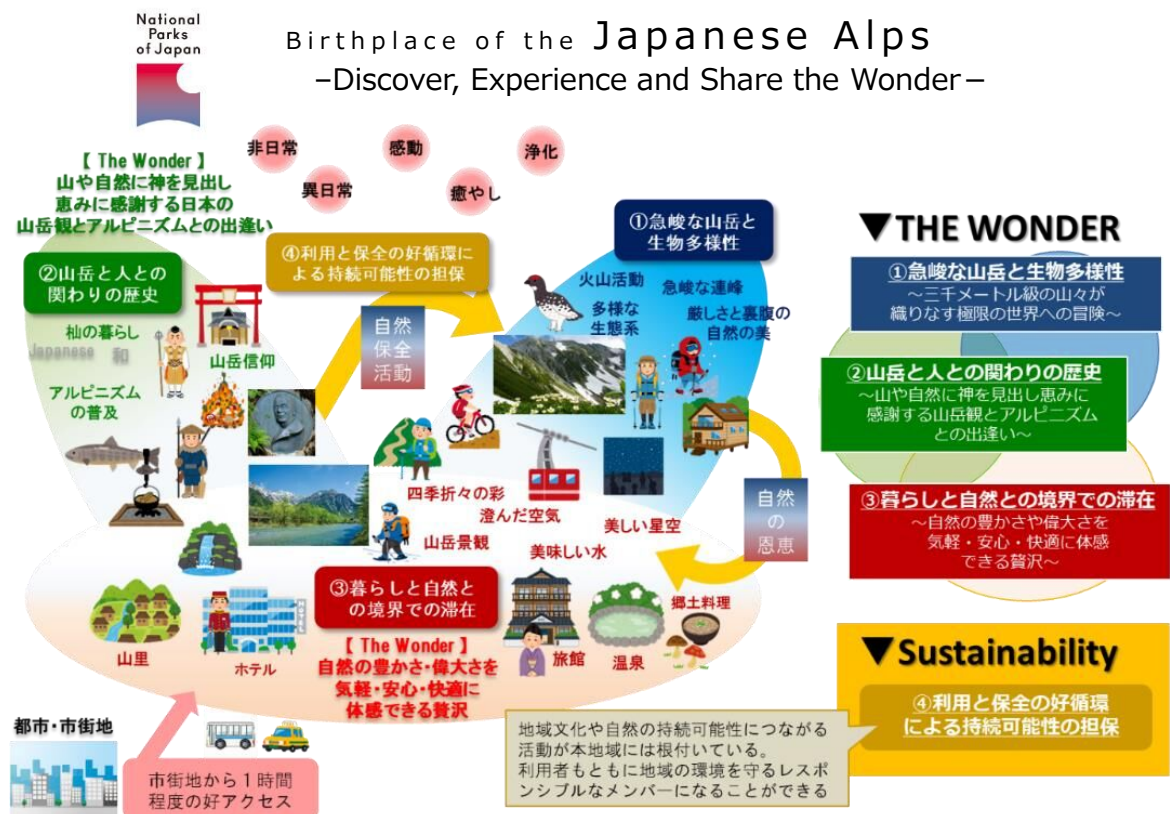
目標 1 地域の強みを活かした Kita Alps Traverse Route の滞在価値の創出

本地域の特徴のひとつとして、世界的視野で見ると、都市から比較的近い距離に急峻な山岳地域が位置していることが挙げられる。

この地形により、訪問者は、都市～郊外～山里～景勝地～山岳という人と自然との関わりのグラデーション（段階）を楽しみ、体感することができる。このグラデーションこそが、この地域のライフスタイルや自然、景観、地域文化などの多様性の源泉といえる。

中部山岳国立公園南部地域の自然環境を保護するためのルールや自発的な活動などがこの地域には根付いており、利用者もこのナショナルパークでの協働に参加することで、自らも地域の自然環境保護に貢献していることとなり、参加型の観光スタイルを作ることができる可能性もある。

(利用推進プログラムで2019年に作成したコンセプト普及方針より)



目標 2 保護と利用が好循環する地域の創出

本地域では、マイカー規制を全国に先駆けて導入するなど貴重な自然環境を守ってきた経緯がある。また、地域内外の事業者や住民も環境基準を遵守するだけでなく、環境に負荷をかけず、また利用時の危険性を低減させるために、様々な努力や労力提供を重ねてきた歴史を有している。

こうしたサステナブル・レスポンシブルな行動規範を地域内外にさらに広めていくとともに、より多くの人々が参画できるよう、活動の「見える化」や「仕組み化」を進めていく。

持続可能で責任がある国立公園のトップランナーであり続けられるように、関係者が協働の関係を一層深め、このチャレンジ自体を地域の価値やブランドとして発信することで、国内外での認知度を高めていく。

目標 3 上質な利用の推進と利用の平準化

本地域は、消費額・認知度は他の国立公園よりも高水準にあるものの、外国人の宿泊日数は短く、短期滞在者が多いと推定される。このため、各エリアでの滞在期間の延長、複数のエリアで連携した楽しみ方の創出などにより、滞在期間の延長を目指す。また、高付加価値の商品を開発することで、消費額の増加と満足度の増加を図るとともに、富裕層も含む様々な利用者層に選ばれるディステーションとなることを目指す²。

利用者数については、すでにトップシーズンのピーク時にはキャパシティの限界近くまで利用がある状況であり、利用者数のさらなる増加のためには、トップシーズン以外にも楽しめるコンテンツを開発し、閑散期の利用を底上げすることで、時間的な平準化を図ることが必要である。

目標 4 国立公園外との連携

当地域の両側に位置する松本市街地、高山市街地はともに全国的にも有数の観光都市である。国立公園の利用推進の取組は国立公園内に留めるのではなく、両市街地など国立公園外の地域も含めて利用者の動線を俯瞰し、利用者の目線に立つて行う。そして、動線上におけるサービスを充実し、利便性の高い受入環境を整備するとともに、適正利用に向けルール・マナーの啓発や高揚感を盛り上げるための国立公園の世界観を演出し、利用者に伝えていく。

これにより、国立公園南部地域を中心としつつ、両市の中心市街地も含めた Kita Alps Traverse Route として確立することで、エリア全体がディステーションとなることを目指す。

² 松本市から高山市をつなぐ本地域を含んだエリアは、2022 年、観光庁によって「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル観光地」に選定されました。これを踏まえて「松本・高山 高付加価値な観光地づくり推進協議会」が、本地域における商品の高付加価値化とディステーションブランディングを進めており、本プログラムもこの動きと連動して、上質な利用を推進していきます。

2. 数値目標

(1) 「利用の質」に関する目標

① 1人あたり消費額

本地域では、より質の高い利用を推進するため、エコツーリズムやアクティビティなどの体験コンテンツの開発と公園内及び周辺地域の周遊の促進を進めている。

これらの効果による消費額の上昇を見込み、2025年度の「日本人1人当たり消費額」の目標値を2018年度の基準値(41,509円)から20%増加の50,000円としてきたが、コロナ禍後の物価上昇分を加味して、目標値を53,250円に上方修正³する。

また、2025年度の「外国人1人当たり消費額」も目標値については、政府目標に準じ、2018年度(68,038円)の30%増加の88,000円としてきたが、コロナ禍後の物価上昇分を加味して、93,720円に上方修正する。

② 平均宿泊日数

国立公園満喫プロジェクト評価に係る「国立公園訪問者アンケート」によると、当地域への来訪者の平均宿泊日数(周辺地域も含む)は2.3泊となっている。これは国内の他の国立公園と比較して低い水準である。当地域では、夜の体験プログラムなど滞在型の利用を推進し、1人あたり宿泊日数を1泊分増加させ、3.3泊まで上昇させることを目指す。

同調査で、外国人の平均宿泊日数(周辺地域も含む)は、3.5泊となっている。そこで、外国人平均宿泊日数を5年間で1泊分上昇させ、4.5泊にすることを目指す。

③ 国立公園であることの認知度

利用者が本地域を国立公園であることを認知し、その価値を感じられるよう、国立公園のゲート(玄関口)としての機能の充実や国立公園としてのブランディングを進めていく。国立公園であることの認知度は、日本人で71.6%、外国人で79.2%であった。プログラム2025では、国立公園としての案内や情報発信をさらに充実させ国立公園であることの認知度を80%とすることを目指す。

<利用の質に対する数値目標>

目標値	基準値(2018年度)	実績値 (2023年11月)	目標値(2025年度)
1人あたり消費額	日本人 41,509円 外国人 68,038円	日本人 40,850円 外国人 53,548円	日本人 53,250円 外国人 93,720円
平均宿泊日数(周辺地域含む)	日本人 2.3泊 外国人 3.5泊	日本人 1.4泊 外国人 1.1泊	日本人 3.3泊 外国人 4.5泊
国立公園であることの認知度	日本人 71.6% 外国人 79.2%	日本人 73.0% 外国人 60.9%	日本人 80% 外国人 80%

※1: 環境省: 国立公園訪問者アンケート(2018年度)

³ 総務省「消費者物価指数」の総合指数をみると、2018年と2023年の間に約6.5ポイント上昇しているため、目標値を6.5%上方修正した。

（２）利用者数に関する目標

１）総利用者数に関する目標値

① 利用者数

本地域の利用者数においては、本協議会にて入込み数を積み上げてカウントする手法を独自に検討してきた。利用者数目標の指標では、本協議会における独自のカウント数を用いることとする。

基準値としては、2019 年の利用者数を採用し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける前の値を用いる。

プログラム 2025 においては、本地域の価値と魅力を高め、発信することで利用を推進していく。特に、閑散期の利用推進に力を入れ、底上げを図る。また、混雑の緩和のために、季節（月）、曜日、利用場所の集中を分散し、来訪者が快適に利用できる国立公園を実現する。これにより、各エリアにおいて、基準値より 10% 利用者を増加させるものとする。これらの取組は、ひとりあたりの消費額の増加とあいまって、地域に効果をもたらすと考える。ただし、基準値は交通機関の利用者数が主となる推計であるため、その点を認識した上で取組を進めていく。

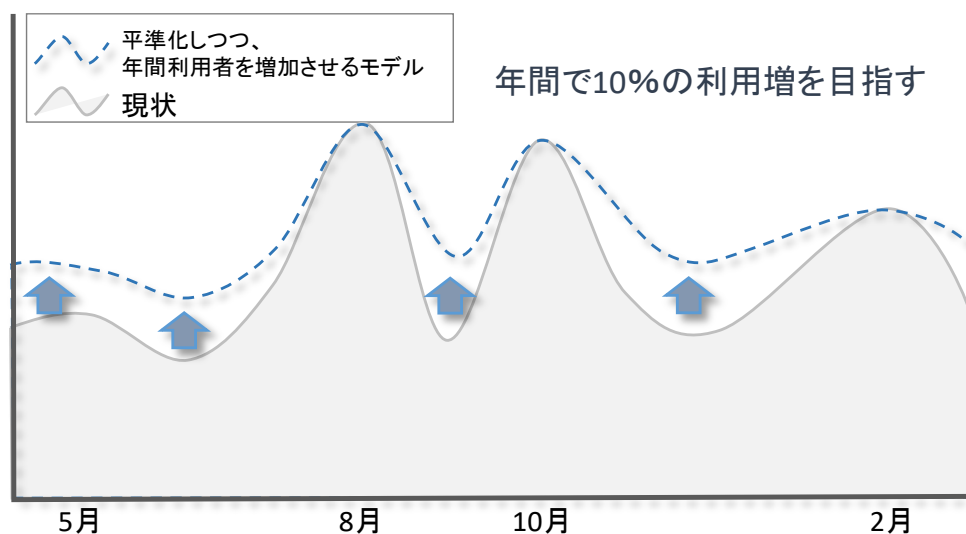
<利用者数（入込数）の数値目標>

エリア	基準値(2019 年)	実績値 (2022 年)	目標値(2025 年)
上高地	993 千人	669 千人	1,092 千人
乗鞍岳・畳平	69 千人	57 千人	76 千人
新穂高ロープウェイ	333 千人	213 千人	366 千人

※上高地、乗鞍岳・畳平の利用者数算出方法は、「中部山岳国立公園南部地域
利用推進協議会による利用者カウント」(9 ページ)による

※新穂高ロープウェイ利用者数は奥飛観光開発の資料による

<平準化しつつ年間利用者を増加させるイメージ>



② 利用の平準化に関する目標

利用者数については、平準化が達成されているかを確認する数値目標を設定する。当地域においては、多くのエリアで8月が利用のピークとなっていることが確認されている。そこで、数値目標としては、ピーク以外の利用者を増加させることで、「年間利用者数に占める8月以外の利用者割合」を上昇させるものとする。

＜年間利用者数に占める8月以外の利用者割合＞

集計ポイント	基準値	実績値 (2022年)	目標値 (2025年)	備考
上高地	80% (2019年)	79.5%	82%	上高地自動車利用適正化連絡協議会調べ等 (上高地BT入込み車両台数による推計値)(4月～11月)ピークは8月
乗鞍岳・畳平	57% (2019年)	66.5%	61%	乗鞍自動車利用適正化協議会「平成31年(令和元年)度乗鞍岳入り込み表」等(5月～10月)ピークは8月
新穂高 ロープウェイ	86% (2018年度)	85.1%	88%	奥飛観光開発調査(4月～3月)ピークは8月

※上高地、乗鞍岳・畳平の算出方法は、「中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会による利用者カウント」(9ページ)による

※新穂高ロープウェイ利用者数は観光開発実績

※COVID-19の影響を考慮し、新穂高ロープウェイは2018年度を基準値とした

2) 外国人利用者数に関する目標

本協議会の独自カウントによると、2019年度(令和元年度)時点で各エリアへの外国人入込み者数を合計するとおよそ46万人であった。

新型コロナウイルス感染症拡大により、海外からの誘客の見込みは不透明であり、移動規制による影響に左右される状況であるため、数の目標を設定は、現時点では行わない。ただし、コロナ禍の終息により、外国人旅行者が復活する時は必ず来るので、外国人利用者の受入れのための準備は引き続き進める。そして、海外旅行市場が復帰した際にはいち早く2019年度(令和元年度)の水準への回復を目指すことを現時点の目標とする。

＜外国人利用者数に対する目標＞

エリア	基準値(2019年)	実績値 (2022年)	目標値(2025年)
上高地	254千人	129千人	254千人
乗鞍岳・畳平	8.4千人	0.3千人	8.4千人
乗鞍高原	2.0千人	0.05人	2.0千人
白骨温泉	0.5千人	0人	0.5千人
奥飛騨温泉郷	197千人	13千人	197千人

※利用者数の算出方法は、「中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会による利用者カウント」(p11)による

第3章 プロジェクトの実施

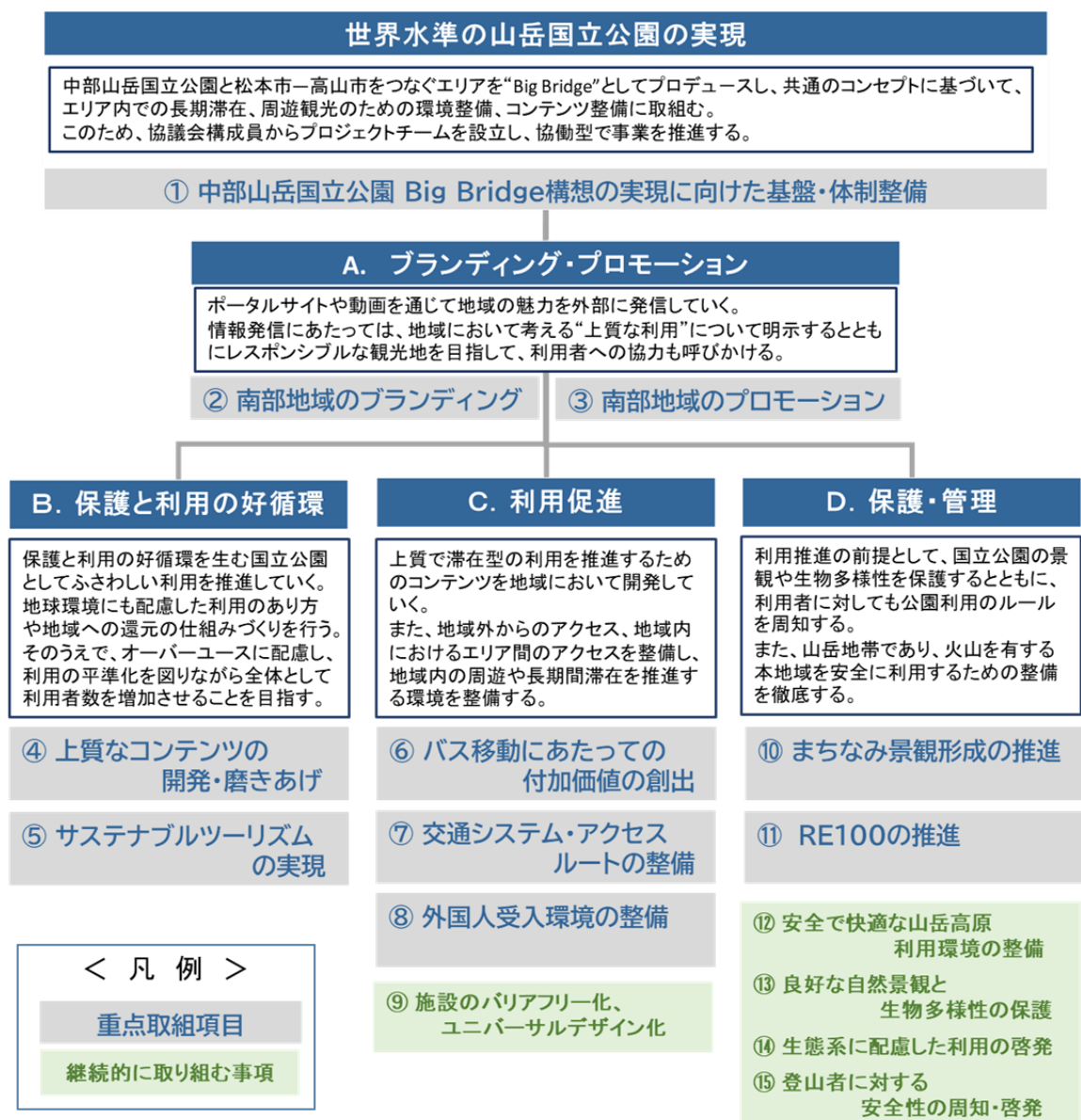
1. プロジェクトの概要

(1) プロジェクト体系

プログラム 2025 は、当該地域の核となる国立公園区域内を中心に、自然景観の磨き上げ、サービス、ホスピタリティ、エリア間の連携などの向上・強化を図り、世界水準のディスティネーションの実現を目指すための5カ年度の計画である。

本地域を上質な体験と滞在ができる「価値のある空間（Big Bridge）」としてブランド化していくため、以下のプロジェクト体系に沿って、地域の多様な関係者との協働により推進していく。

実施プロジェクトの体系と概要



（２）プロジェクトの区分

１）地域の範囲による区分

本地域には８つのエリアがあり、それぞれのエリアが独自の自然環境や地域事情を持ち、それぞれ利用と保護・管理が行われてきた歴史がある。

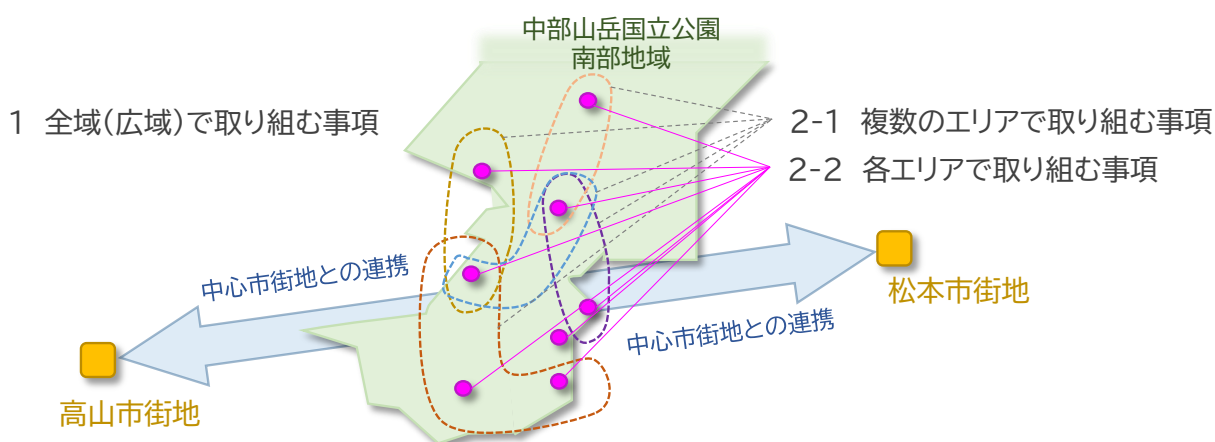
本プログラムは、エリア個別の取組に加えて、国立公園を中心とした広域連携の取組を活発化させることで、「ひとつの国立公園エリア」として認識され、周遊・長期滞在できる地域として選ばれ続けるディステーションとなることを目指している。

南部地域全域で取り組むプロジェクトと個別エリアで取り組むプロジェクトを整理し、本プログラムでは、以下の３つの区分でプロジェクトを記載する。

<プログラム 2025 の取組範囲による区分>

推進単位	No	名称
南部地域全域	1	全域（広域）で連携して推進するプロジェクト
個別エリア	2-1	複数のエリアで連携して取り組むプロジェクト
	2-2	各エリアで取り組むプロジェクト

<プロジェクトの対象範囲のイメージ>



２）重要度による区分

本プログラムで重点的に取り組むことを明確にするため、プロジェクトを以下のふたつの区分に整理する。

<プロジェクトの重要度による区分>

No	区分	本プログラムにおける位置づけ
1	重点取組項目	本プログラムの中で重要度が高いプロジェクトであり、本プログラムが主導して推進するもの。毎年度、進捗評価の対象となる。
2	継続的に取り組む事項	本プログラム以外にも推進計画がある。もしくは、従前より継続している施策・事業。本プログラムでは進捗評価の対象ではない。

（３）プロジェクト推進にあたって対応すること

社会潮流や市場の変化を踏まえて、本プログラムのプロジェクトを実行していく際に前提として対応していく事項を以下に示す。

１）脱炭素・脱プラ等の SDGs の推進

地域の資源や国立公園としてのサービスを持続可能とする取組（保護と利用の好循環）を進める。ゼロカーボン、ゼロプラなど、地球規模の環境問題にもコミットし、国立公園が持続可能な地域づくりのモデルとなるよう取組を推進する。

２）新型コロナウイルス感染症への対応

2019 年より世界的に流行している新型コロナウイルス感染症拡大により、人々の生活様式が大きく変化している。受入れ側においても、感染症拡大防止が新たな課題となっている。

本地域においても感染症拡大防止対策を徹底するとともに、安全性の確保や利用のコントロール、利用者側の理解の醸成、情報発信等に取り組む。

３）新しい需要に対する対応

新型コロナウイルス感染症の流行は世界の旅行市場にも大きな変化をもたらしている。海外からの旅行需要は回復しつつあり、ニーズの変化もみられる。また国内観光においては、自然志向や体験コンテンツなど新たな旅行需要が高まっているが、このような旅行者の意識の変化に対応し、新たな需要に応じた魅力や価値を創出する。

また、国立公園と親和性が高い新たな需要の喚起として、ワーケーションやアドベンチャーツーリズムなどにも対応する。

４）インバウンドへの対応

2022 年 10 月以降の渡航制限の緩和以降、海外からの訪日旅行者は急増しており、コロナ禍前の水準を上回る勢いとなっている。この状況の中で本地域を訪れる外国人利用者也増加しており、利用にあたっての事前の情報提供や現地での受入環境整備に引き続き取り組んでいくとともに、海外エージェントのニーズに充分対応できる体制構築に向けた検討も進めていく。

また、こうしたインバウンドの回復は、マナー・ルールの周知や登山利用等における安全対策等における問題を再び顕在化させており、オーバーツーリズムの問題も懸念されている。これらの問題解消に向けて、外国人利用者の動向を想定した利用環境整備や啓発等にも力を入れていく。

(4) プロジェクトの実施体制

プログラム 2025 は、中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会の構成員が主体となって推進する。実施主体となる構成員名を以下に示す。

カテゴリー	組織名
観光団体	(一社)長野県観光機構
	(一社)岐阜県観光連盟
	のりくら観光協会
	(一社)奥飛騨温泉郷観光協会
	平湯温泉観光協会
	新穂高温泉観光協会
	飛騨乗鞍観光協会
	乗鞍観光協議会
	(一社)松本観光コンベンション協会
	(一社)松本市アルプス山岳郷
	(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会
	上高地ネイチャーガイド協議会
	(一財)自然公園財団 上高地支部
	上高地観光旅館組合
	さわんど温泉観光組合
	白骨温泉旅館組合
	飛騨高山旅館ホテル協同組合
	北アルプス山小屋友交会
	飛騨山小屋友交会
	(一財)飛騨山脈ジオパーク推進協会
交通事業者	アルピコ交通(株)
	濃飛乗合自動車(株)
	上高地タクシー運営協議会
	奥飛観光開発(株)
地方自治体	松本市
	高山市
	長野県
	岐阜県
省庁	国土交通省 北陸信越運輸局 観光部
	国土交通省 中部運輸局 観光部
	林野庁 中信森林管理署
	林野庁 飛騨森林管理署
	環境省 信越自然環境事務所
	環境省 中部山岳国立公園管理事務所

<次頁以降のプロジェクトの推進主体名の記載について>

- ・略称を記入する場合があるが、正式名称は上記のとおり。
- ・複数の主体の参画があり、そのうち取組を先導する主体がある場合は「★」を付して示す。
- ・本協議会の協働型事業として推進するものは「協議会」、協議会構成員が個々に取り組むものは「各構成員」と表記する。

2. プロジェクトの内容

(1) 全域（広域）推進プロジェクト

世界水準の山岳国立公園の実現

① 松本高山 Big Bridge 構想の実現に向けた基盤・体制整備

Big Bridge構想として、中部山岳国立公園と松本市一高山市をつなぐエリアをプロデュースし、共通のコンセプトに基づいて、エリア内での長期滞在、周遊観光のための環境整備、コンテンツの開発や磨き上げに取り組む。協議会構成員からプロジェクトチームを設立し、協働型で事業を推進する。

取組事項・主体	プロジェクトチームの設立	協議会
	国立公園南部地域を横断する多様な移動手段の確立	
	商品としてのプロモーション	
2023 年目標と 達成状況	中部山岳国立公園と松本市一高山市をつなぐエリアを内外に認知させる ・ 松本高山 BigBridge 構想実現プロジェクトチームを発足させ、トライアングル構想、松本・高山発トレイル・ルート検討、モデルルート開発等の個別のプロジェクトチームを組織した。 ・ 松本高山 BigBridge 構想のビジョン・ストーリー等を定めた基本計画・実施計画を策定。計画に基づき情報発信等に取り組み、「Kita Alps Traverse Route（北アルプス・トラバースルート）」というルート名称を公表。	
2025 年目標	中部山岳国立公園と松本市一高山市をつなぐエリアを上質なディステーションとしてブランド化する ・ 松本高山 BigBridge 構想の計画および検討中のトレイル・ルート等を踏まえ、エリア内を広域で移動する様々な移動手段の確立に取り組んでいく。 ・ 実際にこのエリア内における旅行商品や、エリア内を移動するロングトレイル等を開発すること、またそのプロモーションが今後の課題。	

A. ブランディング・プロモーション

② 南部地域のブランディング

日本の国立公園や南部地域の強みとなる要素やストーリー（＝コンセプト）を関係者間で共有し、各主体がこれに基づく統一的なプロモーションを行うとともに、活動や商品・サービスにもこの要素を付加することで、本地域の価値がより明確に世界の旅行市場に伝達される状態をつくる。

取組事項・主体	南部地域ロゴマークの普及	協議会
	南部地域ポータルサイトの協働型運営体制の確立	
	南部地域の利用情報の一元的な発信・拡充	
	・ 英語を中心とした外国語による情報発信	
	・ 日本語コンテンツの拡充	
	Web 等を活用したデジタルマーケティングの実践	環境省
2023 年目標と達成状況	国立公園であることを示すポスター等の作成	
	国立公園であることを示すノベルティの作成	
	南部地域ロゴマークの活用事例を 100 件以上とする 「ポータルサイト」を持続的に運営する協働型の情報発信体制を構築する	
2025 年目標	南部地域ロゴマークの活用事例を 100 件以上とする ・ ロゴマークの活用やポータルサイトの拡充、これを活かした情報の一元的発信を実施。また特徴的デザインのポスターやロゴを使ったノベルティ作成等を進めている。ロゴマークの活用事例は 2023 年 11 月時点で 45 件。	
	南部地域ロゴマークの活用事例を 100 件以上とする ・ ポータルサイトの協働型運営や、これを活用したデジタルマーケティングは、広域での観光地づくりとあわせて今後の検討課題。	

③ 南部地域のプロモーション

南部地域の動画や情報媒体を作成し、地域全体の魅力を発信していくとともに、国立公園としてのプロモーションを行っていく。作成した動画や情報媒体は、各関係機関が運用するWebサイトにリンクを掲出するほか、ビジターセンターなど南部地域内の拠点や両市街地のターミナル拠点、都市圏のアンテナショップ等においても上映・配布する。

取組事項・主体	動画や情報媒体の作成	★環境省、各構成員
	動画や情報媒体を活用した国立公園南部地域のPRの実施	
	中部山岳国立公園パートナーシップ等の拡充・発展	環境省
2023 年目標と達成状況	プロモーション動画を各 Web サイトや両市街地のターミナル拠点、都市圏のアンテナショップ等で上映するとともに、国立公園オフィシャルパートナーや中部山岳国立公園パートナー等と連携した取組事例を 10 以上にする ・ 構成員ごとに動画や冊子等を作成し国立公園プロモーションを展開。雑誌、インフルエンサー等との連携や、バス・サイネージ等の活用も進んでいる。 ・ 国立公園パートナーシップ各者との意見交換を行うなど、地域内外の企業・団体等と連携した活動の拡充が模索されている。	
2025 年目標	マーケティング等に基づき、ターゲットに効果的に訴求する新たな動画や情報媒体を作成するとともに、国立公園オフィシャルパートナーや中部山岳国立公園パートナーと連携した取組事例を 30 以上にする ・ 各種媒体（動画やパンフレット等）が制作されたものの、これらをターゲットに届けるための取り組みや、公園全体のプロモーションになるよう構成員同士での協力体制構築など、活用面では課題が残る。 ・ パートナー同士や、パートナーと地域との連携を促す仕組みづくりが必要。	

④ 商談会・展示会等への参加

南部地域の商品販売を効率的に促進するため、商談会や展示会等へ地域全体として参加できる協力・共同の体制づくりを進めるとともに、インバウンド向けを含む各種セールスツールを地域として整備し、活用していく。

取組事項・主体	商談会や展示会等に向けた協力体制・共同参加体制の構築	協議会
	商談会・展示会向けのセールスツールの整備	★環境省、各構成員
2023 年目標と達成状況	多言語対応を含め、セールスツールが整備されている ・ タリフ（岐阜県観光連盟）やエクスカーションシート（松本市アルプス山岳郷）など、ツール制作が進められている。	
2025 年目標	商談会や展示会等に向けた協力体制・共同参加体制が構築され、商談会や展示会等において効果的なセールスが実施されている ・ 商談会等に向けた、南部地域としての協力体制は不十分。コロナ禍後のセールス拡大に向けた協力体制づくりが課題。	

B. 保護と利用の好循環

⑤ 上質なコンテンツの開発・磨き上げ

国立公園の価値を活かした上質な利用のための、体験コンテンツ開発を推進する。国立公園の利用推進にあたっては、自然への負荷を抑えることはもちろん、付加価値が高く特別な体験を提供し、保護と利用の好循環を創出することが重要となる。以下のテーマに沿った体験コンテンツを各エリアで開発、推進する。

取組事項・主体	エコツーリズムの推進 ・地域資源を活用した価値ある自然体験・学習機会・インタープリテーション等の充実、エコツアーの開発（自然学習・ネイチャーガイド・野生生物観察 等）	各構成員
	アドベンチャーツーリズムの推進 ・自然を活かしたアドベンチャーコンテンツの開発等（冒険的体験、異文化体験 等）	
	山岳コンテンツの魅力向上 ・日本有数の山岳地形を活かしたコンテンツ開発等（登山、トレッキング、スノースポーツ 等）	
	ラグジュアリー体験の推進 ・特別な体験、付加価値が高いコンテンツ開発等（グランピング、人数限定ツアー 等）	
	長期滞在の推進 ・ワーケーション・長期滞在コンテンツの開発等	
2023 年目標と達成状況	上質な利用に向けた上記テーマに沿った体験コンテンツを地域内で複数開発する ・ 五色ヶ原の森の環境学習、自然公園財団等の上高地でのネイチャーガイド、飛騨山脈ジオツアー、乗鞍 E-Bike ツアーなど、様々なエコツアー、アドベンチャーツアーが開発されている。 ・ エコツーリズム推進プロジェクトチームを設置、研究を進めている。	
2025 年目標	上記テーマのコンテンツを持続可能な事業として発展させ、南部地域のブランドに成長させる ・ 体験コンテンツでは担い手確保が地域共通の課題。今後は特に海外ニーズに応じ多言語対応できる高水準人材が必要となっている。 ・ コンテンツ提供事業者と、宿泊事業者やプロモーションを行う団体等の連携を進め、顧客獲得につなげることが課題。 ・ 山岳コンテンツ、ラグジュアリー体験は大きな成果がなく、登山環境では駐車場や登山道など環境整備も課題となっている。 ・ 長期滞在を推進する基盤が整っていない。	

⑥ サステナブルツーリズムの実現

地域資源である自然環境や文化を守るために、脱炭素や脱プラなど地球規模の環境問題にも対応しながら、来訪者に価値が高い体験を提供するサステナブルツーリズムを当地域において実現する。自然や文化を体験そのものの環境負荷を低減することに加え、環境の価値やその持続的な利用について考える契機を提供する地域としていく。キャパシティのコントロールや利用者への協力金の拠出など、地域の環境保護のため利用者にも一定の理解と協力を求め、保護と利用の好循環を生み出していく。

取組事項・主体	サステナブルツーリズムに資する資源調査	協議会
	サステナブルな体験コンテンツの造成	
	サステナブル視点でのブランディングの実践	
2023 年目標と 達成状況	サステナブルな体験コンテンツを 10 件以上開発する ・ サステナブルツーリズム研究チームが設置され、研究を進めている。 ・ 「乗鞍のゼロカーボンに触れる旅」では商品化に向けたモニターツアーを実施。	
2025 年目標	サステナブル視点でのブランディングの実践 ・ 資源の商品化が進み始めているが、継続的な商品販売は今後の課題。また商品販売を通じて国立公園のブランディングにつなげることも求められている。	

C. 利用促進

⑦ バス移動にあたっての付加価値の創出

国立公園南部地域にアクセスする路線バスにおいて、“国立公園に行く” “国立公園内を走る” ことの付加価値を高め、移動そのものが体験コンテンツとなるよう磨き上げを行う。交通事業者においては、当地域に運行する路線等に国立公園であることを示す名称の付加を検討する。また、滞在型の利用に向けた企画乗車券を継続的に販売し、認知度を高めるとともに購入しやすい環境を整える。

取組事項・主体	交通路線のサブネームとして「ナショナルパーク」を冠した名称の設定・普及	アルピコ交通、濃飛バス
	バス車両内等での付加価値の演出の実施	
	企画乗車券の継続販売、購入環境の整備	
2023 年目標と達成状況	ナショナルパークを冠した路線バスを運行する ・ 「ナショナルパークライナー」の命名や、バス車内での国立公園プロモーションを実施。 ・ 国立公園内の各種フリーパス乗車券も継続販売されている。	
2025 年目標	ナショナルパークを冠した路線バスの利用を増加させる ・ 外国人旅行者へのアピールの強化や、フリーパス等の購入環境整備が今後の課題。	

⑧ 交通システム・アクセスルートの整備

松本市、高山市の中心市街地から当地域各エリアまでの利便性が高く効率的な交通システムを整備する。基幹的な二次交通として、松本市、高山市それぞれの中心部からのアクセスの最適化を推進する。国立公園の沢渡ナショナルパークゲート及び平湯バスターミナルをハブ拠点として整備し、そこから各エリアまでの交通システムの適正化を推進する。

取組事項・主体	松本市、高山市中心市街地からの利便性の高い交通システムの運行	松本市、高山市、アルピコ交通、濃飛バス
	自転車利用によるアクセスの向上	環境省、長野県、岐阜県、松本市、高山市
	エリアをつなぐバス公共交通の充実	アルピコ交通、濃飛バス
	需要量に応じたタクシーの運行	上高地タクシー運営協議会
	パークアンドライドの推進	松本市、高山市、アルピコ交通、濃飛バス
	ゼロエミッションビークル利用の促進	★環境省、長野県、岐阜県、松本市、高山市
2023 年目標と達成状況	計画した移動方法の一部を商品化する ・ 各路線の「さわんどバスターミナル」乗入による沢渡の拠点化を実施。 ・ 松本市側・高山市側それぞれで自転車利用推進・適正化を継続的に実施。 ・ タクシー協議会で稼働車両数の確保、上高地タクシーの定額運賃設定、濃飛バス観光ガイドタクシーの運行等を実施 ・ ゼロエミッションに関連し、丹生川地域が奥飛騨温泉郷地域、乗鞍高原での電動アシスト自転車などの取組が実施。	
2025 年目標	計画したすべての移動方法を商品化する ・ 少人数の路線やサービスは民間での継続運営が難しく、いかに軌道に乗せるかが課題。 ・ 広域のトレイル・ルートやサイクルツーリズムなどの動きとも連携し、南部地域内の移動環境整備と、移動することを楽しめるといったコンテンツ開発を連動させることが求められる。	

⑨ 外国人受入環境の整備

外国人利用者の復帰に備え、各施設等において多言語化やキャッシュレス化を引き続き進める。

取組事項・主体	主要施設におけるキャッシュレス対応の推進	各構成員
	各施設における多言語化、外国語案内標記の充実	
2023 年目標と 達成状況	多言語化やキャッシュレス化の普及率を向上させる ・ 各地区でキャッシュレス対応、多言語表記を推進。環境省作成の英語解説文も活用。 ・ 岐阜県観光連盟では電子観光クーポン「ぎふ旅コイン」の普及を進めている。	
2025 年目標	利用者アンケート等の結果を踏まえ、外国人利用者の不満足度をさらに低減する施策を実施する。 ・ 山小屋など携帯電波不良地域ではキャッシュレスの導入が難しく、キャリアへ働きかけも必要か。ただ、個別にはスターリンクの導入も始まっている山小屋も見られる。他には国立公園内での ATM 設置も課題。 ・ 外国人利用者への事前情報提供も課題。	

〔継続的に取り組む事項〕

⑩ 施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化

- 各施設に附属するトイレについては、ユニバーサルデザインの視点から多様な利用者に配慮した利用環境を整備する。登山道にある公衆トイレについても、洋式化していく。また、園路において、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、より多様な人が公園を楽しむことができるよう、環境を整備する。

D. 保護・管理

⑪ まちなみ景観形成の推進

集団施設地区や温泉地等におけるまちなみ景観の形成に向け、南部地域全体での機運の醸成を図り、各エリアにおける具体的な改善の成果やノウハウ等を共有する。

取組事項・主体	有識者を招聘しての現地視察や講演会の開催	協議会
	まちなみ景観形成に関する成果やノウハウ等の共有	協議会
2023 年目標と 達成状況	南部地域全体として景観形成のための機運が醸成されている ・ 各地区で視察や検討会を実施。	
2025 年目標	各エリアにおいて景観の改善が行われ、協議会において各エリアの成果やノウハウ等の共有がされている ・ 検討を踏まえ実践に移す段階にある。	

⑫ RE100⁴の推進

環境省として、使用する電力の100%を再生可能エネルギーによる電力にすることに取り組む。プログラム2025においては、まず、環境省直轄施設においてRE100の達成を目指す。その上で、「ゼロカーボンパーク」に登録している乗鞍高原をはじめとして、地域内の各施設等にも協力を呼びかけ、地域全体でRE100を推進していくものとする。

取組事項・主体	環境直轄施設における RE100 の実現	環境省
	各施設等における実施の働きかけ	環境省
2023 年目標と 達成状況	環境直轄施設において RE100 を達成する ・ 沢渡における温泉熱利活用・脱炭素推進の検討協議を開始。	
2025 年目標	地域内の各施設等へ RE100 実践を普及させる ・ 検討を踏まえ実践に移す段階にある。	

〔継続的に取り組む事項〕

⑬ 安全で快適な山岳高原利用環境の整備

- 自然環境の保護や景観の保全に十分留意し、立地環境や利用特性に応じた登山道・遊歩道等の整備・維持管理を継続的に実施する。

⑭ 良好な自然景観と生物多様性の保護

- ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ等の野生生物と人との望ましい関係の構築に向け、地元関係者において対策を講じていく。

⁴ Renewable Energy 100%の略。事業運営を 2050 年までに 100%再生可能エネルギーで行うことを目標にする。

- ・ 在来種への影響が懸念される外来植物について分布状況の把握を進め、施設の敷地内における除去等の対策を強化する。

⑮ 生態系に配慮した利用の啓発

- ・ 国立公園利用ルールを啓発し、安全かつ自然に影響を与えないような公園の利用を推進する。外国人来訪者に対しても、ルールの遵守が行き届くよう多言語での啓発を展開する。

⑯ 火山防災対策

- ・ ビジターセンター等の拠点において、焼岳、乗鞍岳が火山であることを周知する。

⑰ 登山者に対する安全性の周知・啓発

- ・ 「山のグレーディング」の利用促進をはじめとして、分かりやすいガイドマップやインターネット等による登山道に関する情報提供を多言語で発信する。
- ・ 登山計画書の届出の促進や、「登山を安全に楽しむためのガイドライン（日本語、英語、韓国語、繁体・簡体）」を活用し、外国人を含めた登山者に対して登山におけるルール・マナーの周知・啓発を図る。

（２）個別エリアにおいて取り組むプロジェクト

各エリアにおいて取り組むプロジェクトを次頁以降に示す。なお、各エリアにおいて取り組むプロジェクトのうち、以下のプロジェクトについては、複数エリアに跨がって連携して推進するものとする。プログラムの内容については、次頁以降に示す。

＜複数エリアにおいて取り組むプロジェクト＞

プロジェクト	上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳	白骨温泉	さわんど温泉
A. ブランディング・プロモーション								
乗鞍岳ルートの一環プロモーション			●		●	●		
飛騨山脈ジオパーク構想の推進			●	●		●		
ONSEN・ガストロノミーツーリズムの普及・推進			●	●				
アルプス山岳郷におけるサステナブルツーリズムの推進【改】	●	●			●		●	●
B. 保護と利用の好循環								
利用者負担の仕組みづくり	●	●				●		
C. 利用促進								
上高地・さわんど温泉・平湯温泉エリアにおける機能・魅力強化	●		●					●

なお、次頁以降の各プロジェクトでは、実施内容や目標の一部について、2023 年の状況をもとに見直しを行っている。見直した部分は以下のとおり表示している。

【改】 ……内容や目標等を改めたもの
 （新） ……新たに設定したもの

1) 上高地

I 重点取組項目							
No	区分		取組名				推進主体
1	A.ブランディング・プロモーション	複数	アルプス山岳郷におけるサステナブルツーリズムの推進【改】				環境省、★アルプス山岳郷、★上高地観光旅館組合、★北アルプス山小屋友交会
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			アルプス山岳郷エリアとして、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会による持続可能な観光地の国際基準「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを推進し、環境配慮型の観光地づくりを実践する。				
			2023 年時点での状況				2025 年目標
			■当初目標：アルプス山岳郷の「SDGs 宣言」を策定する ■状況：個々の検討に留まっており、取組の周知と広域の動きにつなげることが課題。				各エリアの事業者や住民が「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを継続的に実施している【改】
2	B.保護と利用の好循環	複数	利用者負担の仕組みづくり				★環境省、松本市、自然公園財団、上高地観光旅館組合、北アルプス山小屋友交会
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			自然環境の保護、景観の保全や安全な利用環境の整備については、国行政機関や地方自治体、公園事業者等によって実施されてきた。このような、公園事業者による利用環境の維持に対し、受益者負担として利用者がその一部を負担する仕組みの導入を、登山道維持連絡協議会等と連携しながら検討する。また、持続可能な仕組みそのものを国立公園の価値としてブランディングに活用する。				
			2023 年時点での状況				2025 年目標
			■当初目標：槍・穂高エリア、上高地エリア、乗鞍岳における利用者負担を実現する ■状況：「北アルプス登山道等維持連絡協議会」による登山道維持の利用者負担（寄付）制度を本格導入。継続的な仕組みづくりと認知度向上に向けて事業が進んでいる。				利用者負担の仕組みを継続的し、効果的な運用方法を検討する
3	B.保護と利用の好循環	個別推進	混雑の解消と年間利用平準化の推進				★環境省、松本市アルプス山岳郷、自然公園財団、上高地観光旅館組合、アルピコ交通、濃飛バス、上高地タクシー運営協議会、
			持続可能な利用のために、混雑時にはバス・タクシーを増加し利便性を維持するとともに、夜間・早朝・閑散期などの利用を促すことで混雑の解消と年間利用平準化を推進する。				
			2023 年時点での状況				2025 年目標
			■当初目標：夜間・早朝・閑散期の利用促進の取組（楽しみ方の開発や情報発信等）を開始している ■状況：シャトルバス整理券システム、全便予約制、混雑予想の HP 公開、閑散期への誘客キャンペーン等を実施。取組を継続し、平準化の効果を出すことが求められている。				夜間・早朝・閑散期の利用が増加し、利用平準化の成果につながっている

No	区分		取組名	推進主体						
4	B.保護と利用の好循環	個別推進	上質なネイチャーガイドプログラムの開発	環境省、松本市、★上高地ネイチャーガイド協議会						
			国立公園の価値を伝える「上質なネイチャーガイドプログラム」の開発を推進し、内容の磨き上げや多言語対応を含めたガイド人材の育成等に取り組む。またネイチャーガイド認定システムの見直しを通じ、そのさらなる活用と高付加価値化を図る。							
			2023 年時点での状況		2025 年目標					
			■当初目標：複数の「上質なネイチャーガイドプログラム」を継続的に販売している ■状況：ジオツアー、明神池親子トレッキングガイド等を開発している。		一定の品質を確保し、上質なプログラムを安定的に提供できる認定システム等の仕組みを構築している					
4	B.保護と利用の好循環	個別推進	野生動物の出没情報の収集・発信	★環境省、松本市、自然公園財団、上高地観光旅館組合、北アルプス山小屋友交会						
			ツキノワグマ等の野生動物の出没情報をエリア内で収集し、リアルタイムで情報を発信する仕組みを構築する。また、各施設でのレクチャープログラムやインタープリテーション等を通じ、利用者の野生動物への関心と理解を深め、普及啓発を推進する。							
			2023 年時点での状況		2025 年目標					
			■当初目標：デジタルサイネージ等でツキノワグマ等の出没情報が把握できるようになっている ■状況：クマ出没情報の共有、Web 等の注意喚起、野生動物対策専門員の配置、利用者への啓発活動を実施しており、今後も継続して対策を実施していく。		レクチャープログラムやインタープリテーション等を通じ、利用者の野生動物への関心と理解が深まっている					
5	C.利用促進	複数	上高地・さわんど温泉・平湯温泉エリアにおける機能・魅力強化	協議会						
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳	白骨温泉	さわんど温泉
			中部山岳国立公園南部地域の中核を成す上高地・さわんど温泉・平湯温泉において、国立公園らしい世界観や特別感を創出することを目標とし、それにふさわしい機能やサービスを提供する。公園区域内の各情報提供施設や交通等も国立公園を体験するためのコンテンツと位置づけ、その魅力と価値の磨き上げを行う。							
			2023 年時点での状況		2025 年目標					
■当初目標：世界水準のディステイネーションを研究し、本エリアにおいてそれを実現するための具体的な計画を立案する ■状況：トライアングル構想のもとに3拠点の機能強化についての検討が始まった段階。		具体的な計画に基づき、世界水準のサービスやホスピタリティを提供している								

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体・計画
B.保護と利用 の好循環	持続可能な観光の推進		
	1	冬季利用の適正化	【上高地ビジョン】
	2	エコツーリズムと環境学習の推進	【上高地ビジョン】
C.利用促進	多様な主体が利用できる利用環境整備		
	1	ユニバーサルデザインへの対応	【上高地ビジョン】
	2	外国人旅行者の受入体制の整備	【上高地ビジョン】
	3	大正池、明神、徳沢等の公衆トイレの改修	【上高地ビジョン】
D.保護・管理	安全で快適な利用環境基盤整備		
	1	梓川河床上昇の状況把握と対策の検討	【上高地ビジョン】
	2	徳沢・横尾地区への管理用道路の整備・維持管理	【上高地ビジョン】
	3	梓川左岸歩道を協働型で一体的に管理するための体制づくり	【上高地ビジョン】
	4	河童橋から明神橋までの梓川右岸歩道の木道の改修・維持管理	環境省、長野県、松本市、自然公園財団
	生態系の保護		
	5	ニホンザルなどの人慣れ・誘引防止対策	【上高地ビジョン】
	6	ツキノワグマとの軋轢を防ぐためのゴミの適正管理等の対策実施	【上高地ビジョン】
	7	在来種への影響が懸念される外来種対策	【上高地ビジョン】
	8	希少野生動植物の保護	【上高地ビジョン】

2) 槍・穂高連峰

I 重点取組項目								
No	区分		取組名				推進主体	
1	A.ブランディング・プロモーション	複数	アルプス山岳郷におけるサステナブルツーリズムの推進【改】				環境省、★アルプス山岳郷、★北アルプス山小屋友交会	
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			アルプス山岳郷エリアとして、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会による持続可能な観光地の国際基準「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを推進し、環境配慮型の観光地づくりを実践する。					
			2023 年時点での状況				2025 年目標	
			■当初目標：アルプス山岳郷の「SDGs 宣言」を策定する ■状況：個々の検討に留まっており、取組の周知と広域の動きにつなげることが課題。				各エリアの事業者や住民が「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを継続的に実施している【改】	
2	B.保護と利用の好循環	複数	利用者負担の仕組みづくり				★環境省、松本市、自然公園財団、上高地観光旅館組合、北アルプス山小屋友交会	
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			自然環境の保護、景観の保全や安全な利用環境の整備については、国行政機関や地方自治体、公園事業者等によって実施されてきた。このような、公園事業者による利用環境の維持に対し、受益者負担として利用者がその一部を負担する仕組みの導入を、登山道維持連絡協議会等と連携しながら検討する。また、持続可能な仕組みそのものを国立公園の価値としてブランディングに活用する。					
			2023 年時点での状況				2025 年目標	
			■当初目標：槍・穂高エリア、上高地エリア、乗鞍岳における利用者負担を実現する ■状況：「北アルプス登山道等維持連絡協議会」による登山道維持の利用者負担（寄付）制度を本格導入。継続的な仕組みづくりと認知度向上に向けて事業が進んでいる。				利用者負担の仕組みを継続的し、効果的な運用方法を検討する	

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体
B.保護と利用の好循環	安全で適正な登山利用の推進		
	1	山のグレーディング情報の発信	環境省、長野県、岐阜県、松本市、高山市
	2	「登山ロゲート」設置等による登山の心構えやルール・マナーの周知啓発	環境省、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
C.利用促進	多様な主体が利用できる利用環境整備		
	1	サイン・案内表示などの外国語対応の充実	環境省、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
D.保護・管理	安全で快適な利用環境基盤整備		
	1	登山道の整備・維持管理	環境省、林野庁、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
	2	山域や県域を越えた登山道の管理体制づくり	環境省、林野庁、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
	生態系の保護		
	3	ニホンザルなどの人慣れ・誘引防止対策	環境省、林野庁、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
	4	ツキノワグマとの軋轢を防ぐためのゴミの適正管理等の対策実施	環境省、林野庁、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
	5	シカの高山植物等の食害対策の実施	環境省、林野庁、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
	6	在来種への影響が懸念される外来種対策	環境省、林野庁、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会
	7	希少野生動植物の保護	環境省、林野庁、長野県、岐阜県、松本市、高山市、北アルプス山小屋友交会、飛騨山小屋友交会

3) 平湯温泉

I 重点取組項目								
No	区分		取組名				推進主体	
1	A.ブランディング・プロモーション	複数	飛騨山脈ジオパーク構想の推進				環境省、岐阜県、★高山市、奥飛騨温泉郷観光協会	
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			ジオパーク構想に基づくプロモーションや体験コンテンツ化等を通じて、国立公園としての価値のブランド向上につなげる。					
			2023年時点での状況				2025年目標	
			■当初目標：ジオパーク関連の展示や学習会を充実させる ■状況：飛騨山脈ジオパーク推進協会を設立し、県・市・観光協会等の連携のもと、プロモーション活動を開始している。				プロモーションや体験コンテンツ等により本地域のジオパークとしての価値が広く利用者に認知されている	
2	A.ブランディング・プロモーション	複数	乗鞍岳ルートの統一プロモーション				協議会	
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			乗鞍スカイラインと乗鞍エコラインを一連のルートとし、乗鞍岳を通過して松本市―高山市を一気通貫する利用を推進する。当該ルートはマイカー規制を行っているため、利用にあたっては、自転車、トレッキング、バス交通などの利用を想定したコンテンツを充実させる。					
			2023年時点での状況				2025年目標	
			■当初目標：乗鞍スカイラインと乗鞍エコラインの統一名称を一般化させる ■状況：「乗鞍ライチョウルート」と命名し、Web情報一元化やパンフレット配布などの情報発信施策を展開。今後もさらなるプロモーションと商品販促を進める。				一気通貫型利用による上質な利用コンテンツを定着させる	
3	A.ブランディング・プロモーション	複数	ONSEN・ガストロノミーツーリズムの普及・推進				環境省、岐阜県、★高山市、飛騨・高山観光コンベンション協会、★奥飛騨温泉郷観光協会、平湯温泉観光協会	
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			温泉地における郷土料理や食材などの食文化を活かし、温泉と食を楽しむ高付加価値化された旅行コンテンツを充実させることで、地域の自然環境の恵みやそこで培われてきた生活文化の魅力を伝え、国立公園利用の価値を向上させる。これまでの実績や課題を踏まえて、経費や手法等の見直し、既存飲食店との連携等を進め、持続可能な仕組みをつくっていく。					
			2023年時点での状況				2025年目標	
			■当初目標：ONSEN ガストロノミーを基軸とした体験プログラムを通年で提供する ■状況：コロナ禍の影響により開催することが困難な状況であったほか、持続可能な開催方法のあり方について検討が必要となっている。				サステナブルで高付加価値化されたコンテンツで温泉地を楽しむ旅行スタイルが一般化している【改】	

No	区分		取組名	推進主体
4	B.保護と利用の好循環	個別推進	ワーケーションに適した地域づくりの推進	環境省、岐阜県、高山市、奥飛騨温泉郷観光協会、平湯温泉観光協会
			豊かな自然環境を味わいながら仕事ができる環境づくりを推進し、ワーケーションという新しいニーズに応じた滞在地として本地域の価値を向上させる。	
			2023 年時点での状況 ■当初目標：エリアごとにワーケーションとして滞在できるプランを販売する ■状況：検討が始まった段階。商品開発・販売を行い、関係人口創出等の成果を出すことが求められる	2025 年目標 本地域がワーケーション先として国内に広く認知されている
5	B.保護と利用の好循環	個別推進	高山市街地と連携した体験コンテンツの開発	★岐阜県、高山市、奥飛騨温泉郷観光協会、★濃飛バス
			高山市街地と奥飛騨温泉郷をつなぐ移動手段を拡充する。市街地からの企画乗車券発売や国立公園を冠した路線のネーミングによる PR、市街地からの多様な移動を開発する。	
			2023 年時点での状況 ■当初目標：高山市街地からの利用者が増加している ■状況：具体的な動きはこれからで、広域で動ける事業者や人材の確保育成が課題。	2025 年目標 高山市街地と奥飛騨温泉郷との周遊観光が商品化され、促進されている
6	C.利用促進	個別推進	奥飛騨ビジターセンターを軸とした国立公園ゲートとしての機能強化	環境省、★岐阜県、高山市、奥飛騨温泉郷観光協会、平湯温泉観光協会
			上高地 槍・穂高連峰 平湯温泉 新穂高温泉 乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉	
			国立公園の西のゲートとして「中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンター」を開設し、多くの人が立寄り利用ルールやマナーを学ぶとともに、国立公園の自然や文化の価値、着地型コンテンツ等の情報を知ることのできる拠点として活用する。	
7	C.利用促進	複数	上高地・さわんど温泉・平湯温泉エリアにおける機能・魅力強化	協議会
			上高地 槍・穂高連峰 平湯温泉 新穂高温泉 乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉	
			中部山岳国立公園南部地域の中核を成す上高地・さわんど温泉・平湯温泉において、国立公園らしい世界観や特別感を創出することを目標とし、それにふさわしい機能やサービスを提供する。公園区域内の各施設や交通サービス等も国立公園を体験するためのコンテンツと位置づけ、その魅力と価値の磨き上げを行う。	
7	C.利用促進	複数	2023 年時点での状況 ■当初目標：世界水準のディステーションを研究し、本エリアにおいてそれを実現するための具体的な計画を立案する ■状況：トライアングル構想のもとに3拠点の機能強化についての検討が始まった段階。	2025 年目標 具体的な計画に基づき、世界水準のサービスやホスピタリティを提供している

No	区分	取組名	推進主体
8	C.利用促進	平湯温泉を起点としたE-Bikeサイクリングの拡充【新】 上高地 槍・穂高連峰 平湯温泉 新穂高温泉 乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉 平湯温泉を起点としたE-Bikeレンタサイクルとして、乗鞍ライチョウルートを通った平湯温泉-乗鞍壱平区間および松本市側への越境サイクリング、平湯温泉-上高地へのサイクリングをそれぞれ整備する。E-Bike回収方法の検討や、ひらゆの森入浴チケットとの連携など付加価値化に取り組み、楽しみながら広域を移動できる環境づくりを進める。 2023年時点での状況 2025年目標	★奥飛騨温泉郷観光協会
			乗鞍ライチョウルート（越境サイクリング）および上高地サイクリングが、E-Bikeレンタルによって多くの利用者を集めている【新】
9	D.保護・管理	温泉地としてのまちなみ景観形成 奥飛騨温泉郷活性化基本構想を踏まえて具体的な景観改善計画を策定し、観光客を満足させるまちなみ景観形成を進める。また必要に応じて有識者招聘等を行い、専門的視点からの助言を受ける。 2023年時点での状況 2025年目標	環境省、岐阜県、★高山市、★平湯温泉観光協会
			具体的な景観形成の取組を実施し、景観改善が具現化している

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体・計画
A.ブランディング・プロモーション	広域の地域プロモーション		
	1	JR 東日本等と連携した奥飛騨温泉郷地域への旅行商品・モデルコースの造成	岐阜県、高山市、奥飛騨温泉郷観光協会
B.保護と利用の好循環	上質な利用のためのコンテンツ開発		
	1	長期滞在化に向けた体験プログラムの開発	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	2	温泉熱等を利用した食のコンテンツ開発	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
C.利用促進	多様な主体の利用を促す環境整備		
	1	イベント開催・温泉めぐり手形発行等による温泉の利用・周遊の促進	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	2	温泉の効用の周知及び多言語化の推進	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
D.保護・管理	生態系の保護		
	1	在来種への影響が懸念される外来種対策	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】

4) 新穂高温泉

I 重点取組項目								
No	区分		取組名				推進主体	
1	A.ブランディング・プロモーション	複数	飛騨山脈ジオパーク構想の推進				環境省、岐阜県、★高山市、奥飛騨温泉郷観光協会	
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			ジオパーク構想に基づくプロモーションや体験コンテンツ化等を通じて、国立公園としての価値のブランド向上につなげる。					
			2023 年時点での状況				2025 年目標	
			■当初目標：ジオパーク関連の展示や学習会を充実させる ■状況：飛騨山脈ジオパーク推進協会を設立し、県・市・観光協会等の連携のもと、プロモーション活動を開始している。				プロモーションや体験コンテンツ等により本地域のジオパークとしての価値が広く利用者に認知されている	
2	A.ブランディング・プロモーション	複数	ONSEN・ガストロノミーツーリズムの普及・推進				環境省、岐阜県、★高山市、飛騨・高山観光コンベンション協会、★奥飛騨温泉郷観光協会、新穂高温泉観光協会	
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			温泉地における郷土料理や食材などの食文化を活かし、温泉と食を楽しむ高付加価値化された旅行コンテンツを充実させることで、地域の自然環境の恵みやそこで培われてきた生活文化の魅力を伝え、国立公園利用の価値を向上させる。これまでの実績や課題を踏まえて、経費や手法等の見直し、既存飲食店との連携等を進め、持続可能な仕組みをつくっていく。					
			2023 年時点での状況				2025 年目標	
			■当初目標：ONSEN ガストロノミーを基軸とした体験プログラムを通年で提供する ■状況：コロナ禍の影響により開催することが困難な状況であったほか、持続可能な開催方法のあり方について検討が必要となっている。				サステナブルで高付加価値化されたコンテンツで温泉地を楽しむ旅行スタイルが一般化している【改】	
3	C.利用促進	個別推進	新穂高ロープウェイ関連施設の整備・リニューアル				奥飛観光開発	
			名古屋鉄道株式会社と連携し、本エリアの自然を存分に活かした活性化策を構築し魅力向上を図る。なお計画にあたっては、自然こそが最大の資源という点を踏まえるとともに、上質なサービス・施設を提供するという観点で進める。					
			2023 年時点での状況				2025 年目標	
			■当初目標：整備やリニューアルのための計画が定められている ■状況：リニューアル計画（PHASE2）が進み、山頂園地ではテラス新設や体験提供の取組も実施。				計画に従って、整備やリニューアルが着手されている	
4	C.利用促進	個別推進	夏季繁忙期の駐車場混雑の緩和				高山市	
			繁忙期の駐車場の混雑を解消するため、適切な駐車場利用方法を検討する。					
			2023 年時点での状況				2025 年目標	
			■当初目標：混雑緩和対策を検討し、実証実験を実施する ■状況：これから具体的な取組を進めていく。				駐車場の混雑が緩和されている	

No	区分	取組名	推進主体
5	D.保護・管理	温泉地としてのまちなみ景観形成	環境省、岐阜県、高山市、奥飛騨温泉郷環境協会、新穂高温泉観光協会、奥飛観光開発
			奥飛騨温泉郷活性化基本構想を踏まえて、観光客を満足させるまちなみ景観形成を進める。また必要に応じて有識者招聘等を行い、専門的視点からの助言を受ける。
		2023 年時点での状況	2025 年目標
		■当初目標：奥飛騨温泉郷活性化基本構想を踏まえた景観改善に着手している ■状況：平湯温泉地内における新たな駐車場整備や平湯大滝公園の再整備を進めている。地区全体のまちなみ景観形成の検討はこれから。	具体的な景観形成の取組を実施している

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体・計画
A.ブランディング・プロモーション	広域の地域プロモーション		
	1	JR 東日本等と連携した奥飛騨地域への旅行商品・モデルコースの造成	岐阜県、高山市、奥飛騨温泉郷観光協会
	2	SNS 等を活用した魅力的な撮影スポットのプロモーション	岐阜県、高山市、奥飛騨温泉郷観光協会、新穂高温泉観光協会
B.保護と利用の好循環	上質な利用のためのコンテンツ開発		
	1	温泉熱等を利用した食のコンテンツ開発	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
C.利用促進	多様な主体の利用を促す環境整備		
	1	長期滞在プランの開発と販売促進	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	2	イベント開催・温泉めぐり手形発行等による温泉の利用・周遊の促進	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	3	温泉の効用の周知及び多言語化の推進	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
D.保護・管理	生態系の保護		
	1	在来種への影響が懸念される外来種対策	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】

5) 乗鞍高原

I 重点取組項目									
No	区分		取組名				推進主体		
1	A.ブランディング・プロモーション	複数	乗鞍岳ルートの統一プロモーション				協議会		
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳	白骨温泉 さわんど温泉
			乗鞍スカイラインと乗鞍エコーラインを一連のルートとし、乗鞍岳を中心として松本市―高山市を一気通貫とする利用を推進する。両県に跨る横断的なルートに一貫する名称を付し、乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会や乗鞍自動車利用適正化協議会と連携しながら、一元的で効果的なプロモーションや情報発信を行う。						
			2023 年時点での状況				2025 年目標		
			■当初目標：乗鞍スカイラインと乗鞍エコーラインの統一名称を一般化させる ■状況：「乗鞍ライチョウルート」と命名し、Web 情報一元化やパンフレット配布などの情報発信施策を展開。今後もさらなるプロモーションと商品販促を進める。				一気通貫型利用による上質な利用コンテンツを定着させる		
2	A.ブランディング・プロモーション	複数	アルプス山岳郷におけるサステナブルツーリズムの推進【改】				アルプス山岳郷、のりくら観光協会		
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳	白骨温泉 さわんど温泉
			アルプス山岳郷エリアとして、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会による持続可能な観光地の国際基準「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを推進し、環境配慮型の観光地づくりを実践する。						
			2023 年時点での状況				2025 年目標		
			■当初目標：アルプス山岳郷の「SDGs 宣言」を策定する ■状況：ゼロカーボンパークとして設備導入支援、水力発電所の建設計画、木の駅事業などが進んでいる。今後はアルプス山岳郷としての宣言や取組の周知等につなげる。				各エリアの事業者や住民が「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを継続的に実施している【改】		
3	B.保護と利用の好循環	個別推進	ワーケーションに適した地域づくりの推進				環境省、長野県、松本市、アルプス山岳郷、★のりくら観光協会		
			豊かな自然環境を味わいながら仕事ができる環境づくりを推進し、ワーケーションという新しいニーズに応じた観光地として本地域の価値を向上させる。						
			2023 年時点での状況				2025 年目標		
			■当初目標：対象エリアごとにワーケーションとして滞在できるプランを販売する ■状況：検討が始まった段階。商品開発・販売を行い、関係人口創出等の成果を出すことが求められる				本地域がワーケーション先として国内に広く認知されている		

No	区分	取組名	推進主体
4	B.保護と利用の好循環	個別推進	上質な自然体験プログラムの充実
			環境省、長野県、松本市、★アルプス山岳郷、★のりくら観光協会、
		個別推進	上質な体験型プログラムの充実を目指し、レンタサイクルやMTBコースの充実化、自然ガイドや体験プログラムの開発、デイグランピングや星空鑑賞等の上質な滞在プラン、ヒルクライム大会等による自転車利用促進などの取組を進める。
			2023年時点での状況
5	C.利用促進	個別推進	2025年目標
			■当初目標：2020年時点から、乗鞍高原で提供される上質な自然体験プログラムの数を倍増させている ■状況：ガイド育成、モニターツアーを実施しツアーの上質化を進めている。ゼロカーボンに係る楽しみ方の開発を行っている。
		個別推進	自然体験プログラムを通じた利用者の滞在が増加している
			2023年時点での状況
5	C.利用促進	個別推進	2025年目標
			■当初目標：面的な上質化の具体的構想を取りまとめている ■状況：基本構想・基本計画を策定。ゼロカーボンパークの拠点として整備する方針。
		個別推進	鈴蘭地区及び一ノ瀬地区の面的な上質化
			環境省、長野県、松本市、アルプス山岳郷、のりくら観光協会
5	C.利用促進	個別推進	鈴蘭地区及び一ノ瀬地区の面的な上質化についての構想を立案し、これに基づいた整備を進める。
			2023年時点での状況
		個別推進	2025年目標
			具体的構想に基づき施設等の上質化の取組が完了している

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体・計画
B.保護と利用の好循環	上質な利用のためのコンテンツ開発		
	1	いがやレクリエーションランドと連携したツアー造成	【乗鞍高原ミライズ】
	2	サマースキーなどスキー・スノーボードの通年利用の推進	【乗鞍高原ミライズ】
C.利用促進	快適な利用のための環境整備		
	1	サマースキー等の利用ニーズを踏まえた春山バスの運行	松本市、アルピコ交通、のりくら観光協会
D.保護・管理	安全で快適な利用環境基盤整備		
	1	一ノ瀬園地の遊歩道や木道の整備・維持管理	【乗鞍高原ミライズ】
	2	自然資源の名称等についての案内標識の整備	【乗鞍高原ミライズ】
	生態系の保護		
	3	鈴蘭地区やスキー場等における在来種への影響が懸念される外来種対策	【乗鞍高原ミライズ】

6) 乗鞍岳

I 重点取組項目									
No	区分		取組名				推進主体・計画		
1	A.ブランディング・プロモーション	複数	乗鞍岳ルートの一統プロモーション				協議会		
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳	白骨温泉 さわんど温泉
			乗鞍スカイラインと乗鞍エコーラインを一連のルートとし、乗鞍岳を中心として松本市・高山市を一気通貫とする利用を推進する。両県に跨る横断的なルートに一貫する名称を付し、乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会や乗鞍自動車利用適正化協議会と連携しながら、一元的で効果的なプロモーションや情報発信を行う。						
			2023 年時点での状況				2025 年目標		
			■当初目標：乗鞍スカイラインと乗鞍エコーラインの統一名称を一般化させる ■状況：「乗鞍ライチョウルート」と命名し、Web 情報一元化やパンフレット配布などの情報発信施策を展開。今後もさらなるプロモーションと商品販促を進める。				一気通貫型利用による上質な利用コンテンツを定着させる		
2	A.ブランディング・プロモーション	複数	飛騨山脈ジオパーク構想の推進				環境省、岐阜県、★高山市、奥飛騨温泉郷観光協会		
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳	白骨温泉 さわんど温泉
			ジオパーク構想に基づくプロモーションや体験コンテンツ化等を通じて、国立公園としての価値のブランド向上につなげる。						
			2023 年時点での状況				2025 年目標		
			■当初目標：ジオパーク関連の展示や学習会を充実させる ■状況：飛騨山脈ジオパーク推進協会を設立し、県・市・観光協会等の連携のもと、プロモーション活動を開始している。				プロモーションや体験コンテンツ等により本地域のジオパークとしての価値が広く利用者に認知されている		
3	B.保護と利用の好循環	複数	利用者負担の仕組みづくり				★環境省、松本市、北アルプス山小屋友交会		
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原	乗鞍岳	白骨温泉 さわんど温泉
			地域における自然環境の保護、景観の保全や安全な利用環境の整備については、国行政機関や地方自治体、公園事業者等によって実施されてきた。このような、公園事業者による登山環境の整備に対し、受益者負担として利用者がその一部を負担する仕組みの導入を、登山道維持連絡協議会等と連携しながら検討する。						
			2023 年時点での状況				2025 年目標		
			■当初目標：槍・穂高エリア、上高地エリア、乗鞍岳における利用者負担を実現する ■状況：「北アルプス登山道等維持連絡協議会」による登山道維持の利用者負担（寄付）制度を本格導入。継続的な仕組みづくりと認知度向上に向けて事業が進んでいる。				利用者負担の仕組みを継続し、効果的な運用方法を検討する		

No	区分	取組名	推進主体・計画
4	B.保護と利用の好循環	個別推進 上質なエコツーリズムの推進	環境省、岐阜県、★高山市、奥飛騨温泉郷観光協会、飛騨乗鞍観光協会、乗鞍観光協議会、濃飛バス
			乗鞍岳の自然資源を活用したガイドプログラム、自然観察教室、写真コンテスト等を通じ、乗鞍岳や周辺地域における上質なエコツーリズムを推進する。
		2023 年時点での状況	2025 年目標
		■当初目標：エコツーリズム推進構想を策定している ■状況：「乗鞍岳エコツーリズム推進全体構想」を策定、国の認定に向け協議を進めている。	エコツーリズムの推進を通じた自然環境の取り組みのもと、乗鞍岳が観光・体験・学習・研究などを総合的に楽しむことができる山岳体験エリアとして魅力を向上させている【改】
5	C.利用促進	個別推進 乗鞍岳を中心とした自転車利用の適正化の推進	環境省、★長野県、★岐阜県、松本市、★高山市、のりくら観光協会、飛騨乗鞍観光協会、アルピコ交通、濃飛バス
			乗鞍岳を中心としたエリアにおける適正な自転車利用の推進のために、ルール策定、普及啓発に取り組む。
		2023 年時点での状況	2025 年目標
		■当初目標：適正な自転車利用推進のためのルールが策定されている ■状況：自転車利用者からの寄付を活用した安全対策、紅葉時の駐停車規制、安全看板の設置、啓発パトロール等が進められている。	乗鞍岳エリアにおいて、適正な方法での自転車利用が進んでいる

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体・計画
B.保護と利用の好循環	上質な利用のための環境整備		
	1	五ノ池等の適切な利用に向けた調査及び環境整備	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
C.利用促進	多様な主体の利用を促す環境整備		
	1	乗鞍鶴ヶ池集団施設地区（畳平）内の利用施設のユニバーサルデザイン化の推進	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
D.保護・管理	安全で快適な利用環境基盤整備		
	1	安全な登山環境を確保するための登山道の点検・パトロール	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	2	防災訓練や啓発活動、警戒区域内の施設や標識整備を通じた火山防災の実施	長野県、岐阜県、松本市、高山市 【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	3	畳平等での木道・散策路の整備・維持管理	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	生態系の保護		
	4	在来種への影響が懸念される外来種対策	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】
	5	希少野生動植物の保護	【岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画】

7) 白骨温泉

I 重点取組項目							
No	区分		取組名				推進主体
1	A.ブランディング・プロモーション	複数	アルプス山岳郷におけるサステナブルツーリズムの推進【改】				環境省、★アルプス山岳郷、★白骨温泉旅館組合
			上高地	槍・穂高連峰	平湯温泉	新穂高温泉	乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			アルプス山岳郷エリアとして、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会による持続可能な観光地の国際基準「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを推進し、環境配慮型の観光地づくりを実践する。				
			2023 年時点での状況				2025 年目標
			■当初目標：アルプス山岳郷の「SDGs 宣言」を策定する ■状況：個々の検討に留まっており、取組の周知と広域の動きにつなげることが課題。				各エリアの事業者や住民が「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを継続的に実施している【改】
2	B.保護と利用の好循環	個別推進	ワーケーションに適した地域づくりの推進				環境省、長野県、松本市、アルプス山岳郷、白骨温泉旅館組合
			豊かな自然環境を味わいながら仕事ができる環境づくりを推進し、ワーケーションという新しいニーズに応じた観光地として本地域の価値を向上させる。				
			2023 年時点での状況				2025 年目標
			■当初目標：対象エリアごとにワーケーションとして滞在できるプランを販売する ■状況：検討が始まった段階。商品開発・販売を行い、関係人口創出等の成果を出すことが求められる。				本地域がワーケーション先として国内に広く認知されている
3	B.保護と利用の好循環	個別推進	温泉地を拠点とした魅力的な体験プログラムの開発				環境省、松本市、★アルプス山岳郷、★白骨温泉旅館組合
			噴湯丘・球状石灰などの特別天然記念物や温泉の活用等を通じ、利用者向けに地域の自然環境や文化を体験するプログラムを開発し、上質な利用を促す。				
			2023 年時点での状況				2025 年目標
			■当初目標：複数の体験プログラムを販売している ■状況：ソフト事業開発の検討チームが設置された。具体的な動きはこれから。				体験プログラムの販売を通じて利用者の滞在が促進されている
4	D.保護・管理	個別推進	温泉地としてのまちなみ景観形成				環境省、松本市、アルプス山岳郷、白骨温泉旅館組合
			国民保養温泉地としての統一的で良好な景観の維持、遊歩道の整備や山林等における自然景観の改善のために、白骨温泉まちづくり委員会等の活動を通じて、ガードレール老朽化に伴う市道の再整備、十石岳への登山道整備、冠水溪への遊歩道整備、つり橋の再構築などを進める。				
			2023 年時点での状況				2025 年目標
			■当初目標：景観改善のための計画が策定されている ■状況：林道整備などを実施。				景観形成の具体的な取組が推進されている

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体・計画
C.利用促進	多様な主体の利用を促す環境整備		
	1	温泉・湯治におけるバリアフリー化や外国人受入環境の向上	白骨温泉旅館組合
D.保護・管理	安全で快適な利用環境基盤整備		
	1	乗鞍高原等へ至る登山道の整備	松本市、白骨温泉旅館組合

8) さわんど温泉

I 重点取組項目				
No	区分	取組名	推進主体	
1	A.ブランディング・プロモーション	アルプス山岳郷におけるサステナブルツーリズムの推進【改】 上高地 槍・穂高連峰 平湯温泉 新穂高温泉 乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉 アルプス山岳郷エリアとして、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会による持続可能な観光地の国際基準「GSTC-D」に基づいた観光地づくりを推進し、環境配慮型の観光地づくりを実践する。	環境省、★アルプス山岳郷、★さわんど温泉観光組合	
			2023 年時点での状況	
			2025 年目標	
			■当初目標：アルプス山岳郷の「SDGs 宣言」を策定する ■状況：個々の検討に留まっており、取組の周知と広域の動きにつなげることが課題。	
2	A.ブランディング・プロモーション	さわんど温泉エリアの将来ビジョンの策定 沢渡ナショナルパークゲートをはじめエリア全体の機能強化と魅力創出に向けた将来像を定め、その実現のためにさわんど温泉エリアにおけるサービス拡充や交通拠点化のための整備等の事業を整理し、ロードマップをとりまとめる。	環境省、松本市、アルプス山岳郷、さわんど温泉観光組合、アルピコ交通、上高地タクシー運営協議会、	
			2023 年時点での状況	
			2025 年目標	
			■当初目標：さわんど温泉エリア全体で合意形成を図る場が設けられている ■状況：将来ビジョンと将来構想図を策定、さわんどを滞留拠点とするための市営駐車場再開発や「古道アドベンチャーツアー」など新たな魅力創出に取り組んでいる。	
3	B.保護と利用の好循環	温泉地を拠点とした魅力的な体験プログラムの開発 さわんど温泉エリアを拠点として、周辺の林道や古道ウォーキング等の自然体験ができるプログラムを開発・販売する。	環境省、松本市、アルプス山岳郷、さわんど温泉観光組合	
			2023 年時点での状況	
			2025 年目標	
			■当初目標：複数の体験プログラムを販売している ■状況：将来ビジョンと将来構想図を作成。古道アドベンチャーツアー開発等の動きを継続し、プログラムのさらなる開発・販売を予定。	
4	C.利用促進	沢渡ナショナルパークゲート等の国立公園ゲートとしての機能強化 沢渡ナショナルパークゲートやバスターミナルにおいて、南部地域の各エリアへ移動する交通拠点としてのハブ化を推進し、利便性を高めることで、サービスの拡充、魅力の向上、域内周遊を促し、国立公園の「東のゲート」としての機能を強化する。利用者に向けては、各種情報提供やルールの周知等で適正な利用推進を図るとともに、国立公園の特別感を演出する。【改】	★環境省、松本市、さわんど温泉観光組合、アルピコ交通、上高地タクシー運営協議会、上高地観光旅館組合	
			2023 年時点での状況	
			2025 年目標	
			■当初目標：沢渡 NPG におけるインタープリテーションを充実化し、施設の利用価値を高める ■状況：トライアングル構想のもとに3拠点の機能強化についての検討が始まった。市営第3駐車場が登山客で満車になり観光客が NPG を利用できないケースも出ており、対応が必要。	

No	区分	取組名	推進主体
5	C.利用促進	上高地・さわんど温泉・平湯温泉エリアにおける機能・魅力強化	協議会
			上高地 槍・穂高連峰 平湯温泉 新穂高温泉 乗鞍高原 乗鞍岳 白骨温泉 さわんど温泉
			中部山岳国立公園南部地域の中核を成す上高地・さわんど温泉・平湯温泉において、国立公園らしい世界観や特別感を創出することを目標とし、それにふさわしい機能やサービスを提供する。公園区域内の各施設や交通サービス等も国立公園を体験するためのコンテンツと位置づけ、その魅力と価値の磨き上げを行う。
			2023 年時点での状況
			2025 年目標
6	D.保護・管理	温泉地・ゲートタウンとしてのまちなみ景観形成	環境省、松本市、アルプス山岳郷、さわんど温泉観光組合
			温泉地また国立公園の入口としての統一的で良好な景観の形成を行うための計画を定め、さわんど温泉エリアの住民や事業者と連携しながら、エリアの魅力づくりを推進する。
			2023 年時点での状況
			2025 年目標
			■当初目標：世界水準のディステーションを研究し、本エリアにおいてそれを実現するための具体的な計画を立案する ■状況：トライアングル構想のもとに3拠点の機能強化についての検討が始まった段階。
6	D.保護・管理	温泉地・ゲートタウンとしてのまちなみ景観形成	環境省、松本市、アルプス山岳郷、さわんど温泉観光組合
			温泉地また国立公園の入口としての統一的で良好な景観の形成を行うための計画を定め、さわんど温泉エリアの住民や事業者と連携しながら、エリアの魅力づくりを推進する。
			2023 年時点での状況
			2025 年目標
			■当初目標：景観改善のための計画が策定されている ■状況：拠点整備計画立案などの動きがある。

Ⅱ 継続的取組項目			
区分	No	取組名	推進主体
C.利用促進	多様な主体が利用できる利用環境整備		
	1	沢渡 NPG 及び松本市営駐車場の案内サイン・看板等の整備	環境省、松本市
	2	沢渡市営駐車場の機能強化を通じた上高地への乗換システムの補完	環境省、松本市、さわんど温泉観光組合、アルピコ交通、上高地タクシー連絡協議会
	3	温泉・湯治におけるバリアフリー化や外国人受入環境の向上	さわんど温泉観光組合
D.保護・管理	安全で快適な利用環境基盤整備		
	1	遊歩道や木道の再整備	松本市、さわんど温泉観光協会
	生態系の保護		
	2	在来種への影響が懸念される外来種対策	環境省、林野庁、長野県、松本市、さわんど温泉観光組合
	3	シカの高山植物等の食害対策の実施	環境省、林野庁、長野県、松本市、さわんど温泉観光組合

3. プログラムの推進体制

(1) 協議会構成員

プログラム 2025 は、中部山岳国立公園南部地域(長野県松本市・岐阜県高山市)に関わる国、県、市及び観光団体、交通事業者等関係者等から構成される「中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会」において推進する。

(2) 事務局

これまで本協議会事務局は、環境省及び長野県、岐阜県に置かれてきたが、プログラム 2025 をより強力に推進するために、事務局体制に新たに松本市と高山市を加える。

事務局として、環境省は本協議会における全体のとりまとめや調整等を主導し、両県、両市は、それぞれの域内の構成員のとりまとめや会場の提供等を行う。また、国立公園の利用に関係する事業等についても相互に情報交換を行い、各機関が行う施策において相互連携し、効果の最大化と効率化を図る。さらに、両県両市においては、各自治体内における関係部局との調整のほか、各自治体からも広域的課題の対応手段として本協議会との連携の働きかけを行う。

4. プログラムの進捗管理

(1) 進捗確認

プログラム 2025 では、「利用の質」と「利用者数」に関する数値目標を設定した。また、重点取組項目に位置づけられているプロジェクトについては、推進主体を明確化し、中間年・最終年の目標を設定した。

これらの目標に対する進捗確認は、以下の内容・手法で実施し、毎年度、本協議会において成果と課題を共有し、成果を出すための検討を行う。

No	区分		内容	周期	実施方法
1	利用の質		1人あたり消費額/平均宿泊日数/ 国立公園であることの認知度	2年に 1度	対面 アンケート
2	利用者 数	入込者数	主要エリアの入込者数（日本人/外国人）	毎年	利用者 カウント調査
		利用の平準化	年間利用者数に占めるピーク月の割合		
3	プロジェクトの進捗		各プロジェクトの推進主体・関係者 による成果・課題の報告に基づく評価	毎年	協議会構成員 への調査

(2) プログラム全体の評価

上記の進捗確認を毎年実施した上で、プログラムの中間年(2023年度)のタイミングにおいて、社会情勢や進捗状況を踏まえ、数値目標や取組内容等の見直しを行った。



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

2024 年（令和 6 年）3 月改訂